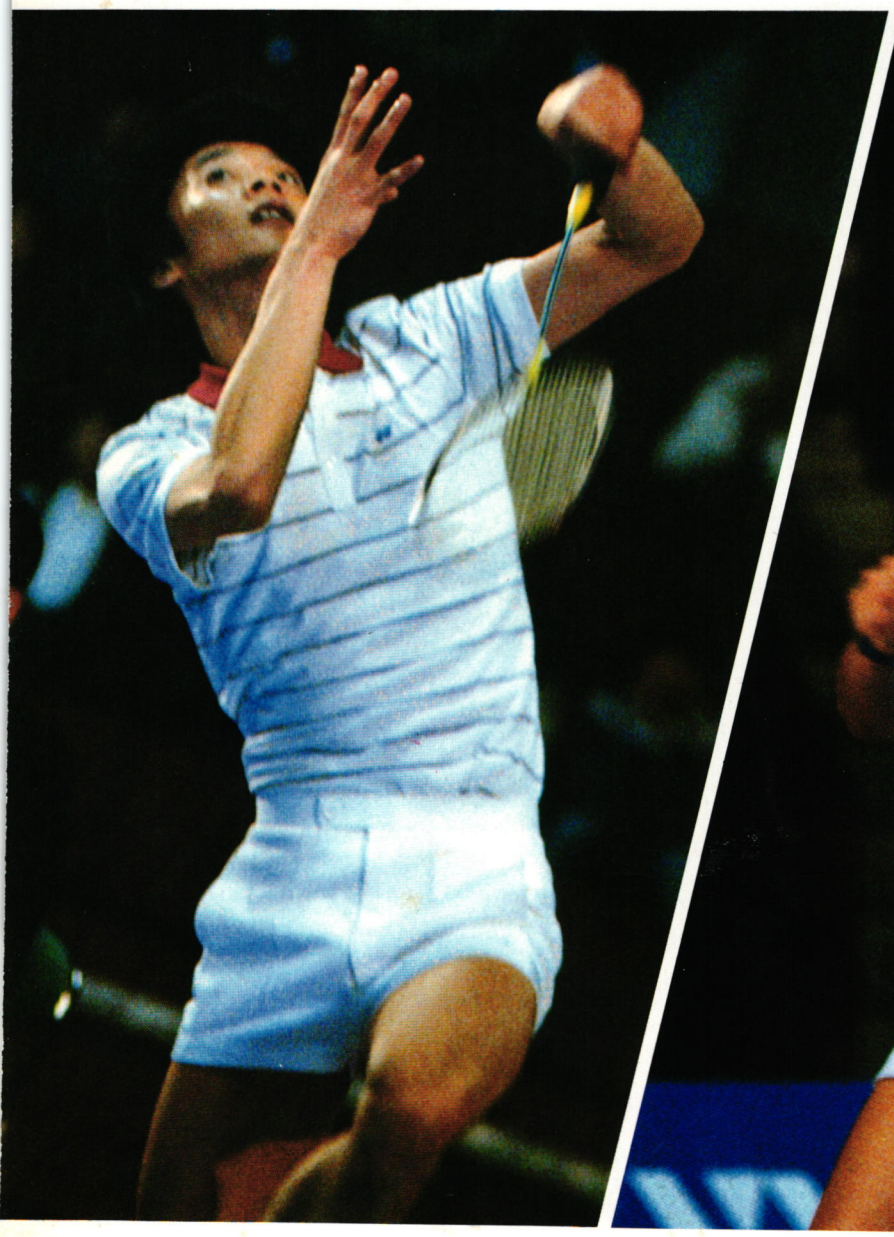
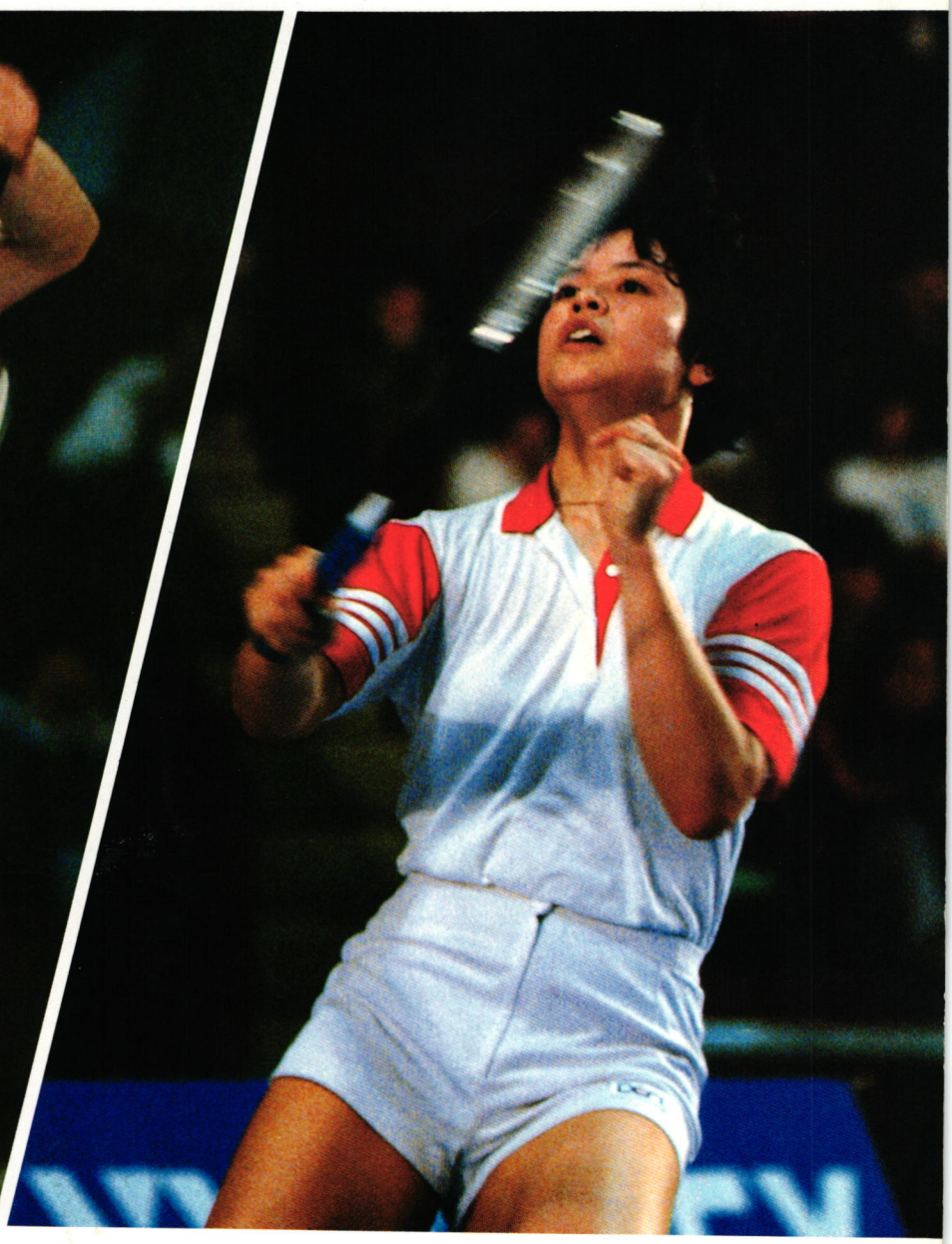
記録 3
(スコア付)

第37回

昭和58年度全日本総合バドミントン選手権大会

37th ALL JAPAN BADMINTON CHAMPIONSHIPS'83





主　催

財団法人 日本バドミントン協会



New 守りにしなやか 攻めにパワフル…I.Pシャフト

BT-75

現在、バドミントンのストロークはきわめて短かく、さらに俊敏な動きが要求されるようになってきています。より高度なテクニックを駆使するためには、ラケットの反発力の高さがものを言います。BT-75—カワサキならではのI.Pシャフトにより、バネのような反発力と的確なコントロールを持つ、攻守にすぐれた理想のラケットが誕生しました。攻撃に際しては、手首のスナップをハードに伝え、爆発的なパワーのシャトルを相手コートに打ちこむ。守りにまわっては、相手の打ったシャトルをできるだけラケットにひきつけたまま正確なコントロールで返し、相手に次のプレイを予測させないうちに攻撃に転ずる…。I.Pシャフト性能がダイナミックなプレイを演出します。



BT-75
- 素材：高カアルミ合金フレーム
  グラファイトシャフト
- カラー：ブラック レッド ブルー（ケース付）
- サイズ：UL-3・4・5 XL-3・4・5
- フレーム価格：9,500円

Kawasaki

カワサキラケット株式会社 本社：〒130東京都墨田区両国1-10-6 TEL.(03)633-7211（大代） 大阪支店：〒543大阪市天王寺区上本町3-5-11 TEL.(06)764-5591（代表）

内閣総理大臣杯
文部大臣杯 争奪

第37回
昭和58年度全日本総合バドミントン選手権大会

37th
ALL JAPAN
BADMINTON
CHAMPIONSHIPS'83

会期

昭和58年12月20日(火)～同12月25日(日)

会場

駒沢オリンピック公園体育館
国立競技場代々木第2体育館

主催

財団法人日本バドミントン協会

写真提供：ベースボールマガジン社
(バドミントンマガジン)

内閣総理大臣杯・文部大臣杯争奪

第37回全日本総合バドミントン選手権大会を迎えるにあたって



財団法人 日本バドミントン協会
会　長　桜内義雄

昭和22年に始まりましたこの全日本総合選手権大会も、今回で第37回目を迎えました。この歴史ある大会を、今年も無事に開催できますことを心からうれしく感じております。

ことに本大会は記念すべき大会であります。それは、この大会のために中曽根首相より「内閣総理大臣杯」および文部大臣より「文部大臣杯」が寄贈されたことです。バドミントン競技の巾広い普及ぶり、その競技水準の高さ等々が評価され、日本一の覇者をきめるこの大会に大杯が授与されたということは、誠に欣快にたえません。今回からは内閣総理大臣杯争奪選手権大会です。私どもバドミントン関係者は、これを機に心を新たにしていっそうの努力をいたし、斯道発展の実をあげねばならぬと思う次第でございます。

選手諸君たちもこの大会の名誉を自覚し、平素の実力をいかんなく発揮して、すばらしい試合を展開してくれるものと確信いたしております。どうかご来場の皆様におかれましても、力いっぱい熱戦を応援してあげてください。

ふりかえりますと、国内の競技大会も年々盛んになり、競技レベルも年々向上いたしております。しかし、世界の趨勢を見た場合、世界はもっと早いスピードで発展上達しています。安閑としていられないのが現状なのです。ことに隣接の友好国である中国の台頭は目をみはるものがあります。わが国は、現在、女子世界選手権「ユーバー杯」保持国として世界に覇をとなえておりますが、その防衛を考えるとき誠に寒心にたえません。もちろん国情や環境のちがいはありますが、この中国勢の活躍のなかに、我々が学ばねばならぬスポーツの原点があるやのように思えてなりません。

本大会にひきつづき行われる全日本ジュニア選手権大会で、年内の競技大会は全部おわります。そして新年１月には世界の強剛をあつめての国際大会「ジャパン オープン '84」が東京体育館で開催されます。そして、明年は「トーマス杯」「ユーバー杯」決戦の年でもあります。どうか本大会が国内における最高峰であるにとどまらず、世界に通用する選手を生む大会になりますよう、関係各位のいっそうの精進を祈ってやみません。

おわりにあたりまして、本大会の開催に格段のご支援ご努力賜わりました関係各位に、心より御礼申しあげます。ありがとうございました。

バドミントン日本一をきめる大会



財団法人 日本バドミントン協会
副会長　小　口　政　雄

全日本総合バドミントン選手権大会は昭和22年に始まり、昭和34年までは全日本選手権大会として運営され、昭和35年より全日本総合選手権大会として今日に至っています。その間、いくたの名選手が生まれ、全英選手権や世界選手権といった檜舞台で活躍してまいりました。文字通り、その年その年のバドミントン日本一をきめる名誉の大会、それが全日本総合選手権大会なのです。

ちなみに大会要項から、本大会への参加資格を抜粋してご紹介しますと次のようになっています。

〔参加資格〕本年度(財)日本バドミントン協会登録会員にして下記に該当するものに限る。

(1)本大会出場有資格者

a．昭和57年度全日本総合ランキング男女単・複・混合複８位以内
b．第26回全日本社会人選手権大会ランキング男女単・複・混合複８位以内
c．第34回全日本学生選手権大会ランキング男女単・複４位以内
d．第22回全日本教職員選手権大会ランキング男女単・複・混合複２位以内
e．第34回全国高等学校選手権大会　男女単・複２位以内
f．予選会　男女単・複・混合複４位以内
g．(財)日本バドミントン協会推せん選手若干名

(2)予選会出場者

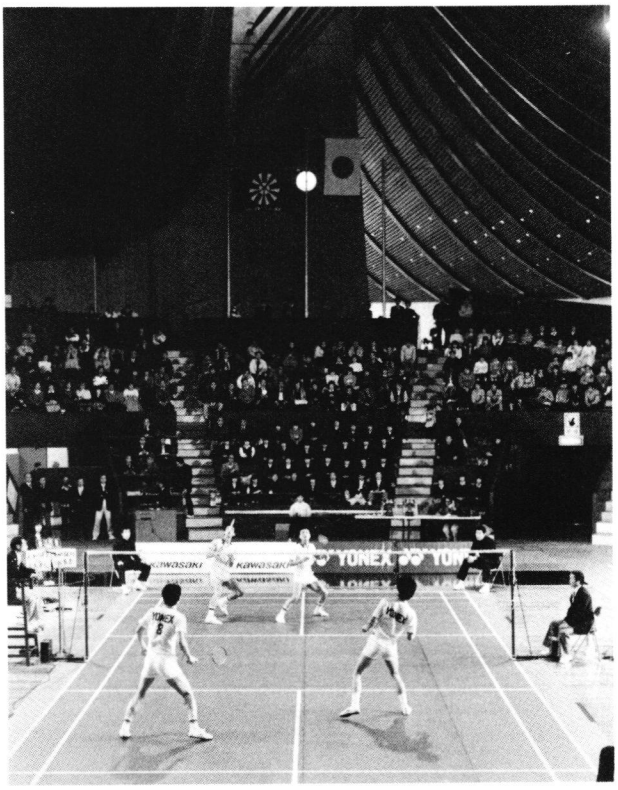
a．第26回全日本社会人選手権大会ランキング男女単・複・混合複９位～16位
b．第34回全日本学生選手権大会ランキング男女単・複５位～８位
c．第22回全日本教職員選手権大会ランキング男女単・複３位以内
d．第34回全国高等学校選手権大会　男女単・複３位以内
e．各地区　男女単・複・混合複各１名(組)
f．(財)日本バドミントン協会推せん選手若干名

これをご覧いただいても、日本の代表選手が集ってその雌雄を決する大会だということがおわかりいただけると思います。特に、もうお気づきだと思いますが、この大会の特長は各種選手権大会の枠をとりはらって、選手が実力を競い合うところにあります。若手がベテランの胸を借りるといったシーンやライバル同志が激突するシーンなど、きっと面白い熱戦が展開されると思います。どうぞ我が国を代表する選手たちのすばらしいプレーを心ゆくまでお楽しみください。

若手にも……ベテランにも……

熱戦を期待して

(財)日本バドミントン協会
選手強化本部長　**内藤安雄**



昭和58年の掉尾を飾る全日本総合バドミントン選手権大会は、本戦出場者実数〔男子64名・女子61名〕総勢125名の選手によって競われます。ご承知の通り、この大会は(財)日本バドミントン協会が今年主催した大会の上位入賞者と、将来を嘱望される本協会推薦選手だけが出場を許される、きわめて格式の高い大会であります。

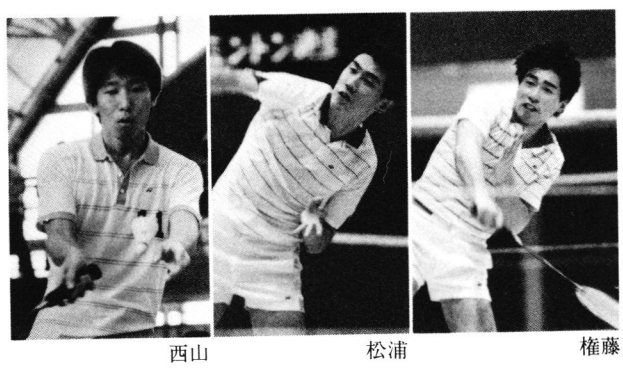
はたして今年の栄光はだれに……。若手の躍進を心から念じつつも、一方ではベテランの活躍をも期待するという、二律背反的な心情のなかからその行方を追うこととします。

〔男子シングルス〕

昨年度本大会のチャンピオン長谷川博幸にとっては、社会人大会の汚名挽回と本大会の２連覇は、大きな宿題である。しかし、その行く手をはばむ者に社会人大会第１位の銭谷欽治がいる。この両者の準決勝での対決は、男子シングルスのひとつの山場となろう。

いずれが決勝進出をきめるにせよ、西山・松浦・権藤の挑戦を受けることは必須と思われるが、この大会シングルス１本にしぼって出場する西山の意欲に期待したい。

もうひとつの見どころは、松野VS鏑木・井上VS今井・松浦VS辻の対戦で、まさに新旧の激突である。日本の男子バドミントンの将来を占ううえで、若きダークホースたちの奮起を願うや切である。

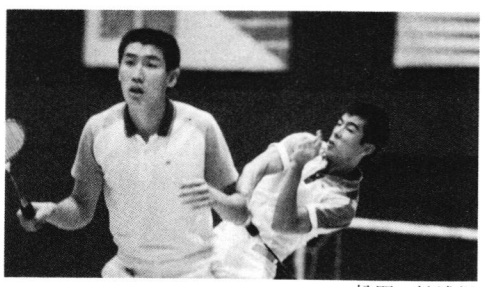


西山　松浦　権藤

〔男子ダブルス〕

昨年度チャンピオン長谷川博幸／宮本幸弘組、古豪池田信孝／尾崎幹雄組、今泉／米沢組、今井／栗原組の上位進出は、現状として順当と思われる。しかし、学生No.１の松野／松浦組、同No.２の権藤／石場組、さらにはニューペアーの宮森／井上組も本大会に向けて調整は上々である。

ただ、この種目に限って予選進出組が「クセモノ」である。圧倒的に強いペアーが見当らないので、初回戦から目が離せないであろう。

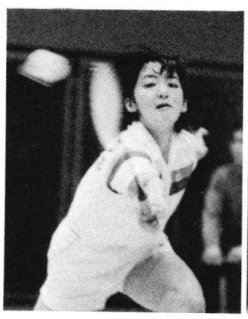


松野・松浦組

〔女子シングルス〕

本大会３連覇、社会人大会２連覇の北田スミ子は、他に比類なき強さを誇っている。準々で西村、準決では河本と対戦し、さらには東海林・米倉のいずれかと雌雄を決することになろう。北田は本大会シングルス１本にしぼり４連覇を狙っているが、何といっても準決勝での河本との一戦が大きな山場であり、事実上の決勝戦ではなかろうか。

学生チャンピオン平間、高校チャンピオン鴻原の成長は、次期ユーバー杯への一縷の望みであり、本大会での健闘がおおいに期待されるところである。



平間



鴻原

〔女子ダブルス〕

ベテラン徳田敦子／米倉よし子組が健在である。過日のスカンジナビア・マスターズにおいて中国を破り、久々の優勝をはたして自信をつけている。これを追うものは、高峯／陣内組、西村／岩見組、東海林／菊池組、そして河本／高田組が有力である。特に、社会人大会で不覚をとった河本組は、雪辱を期して本大会に臨むであろう。その試合展開におおいに注目したいものである。



河本・高田組

〔混合ダブルス〕

辻敏弘／松村順子(旧姓徳永)組は前年度チャンピオンであるが、残念ながら練習不足である。社会人大会優勝の栂野尾夫妻組が筆頭候補と思われるが、鈴木／関根組、松口／星組、山本／高田組、宮森／三田組、そして森下／菊池組がその行く手をはばもうとしている。好漢栂野尾組の奮起一番に６度目の優勝を期待するのは無理だろうか。



栂野尾(昌)・栂野尾(悦)組

タイムテーブル

㋮＝予選会　MS＝男子シングルス　MD＝男子ダブルス　LS＝女子シングルス　LD＝女子ダブルス　Mix＝混合ダブルス　①＝組合せ・競技番号

〈駒沢オリンピック公園体育館〉

12月20日(火)

時間＼コート番号	1	2	3	4	5	6	7	8
11：00	㋮Mix①	㋮Mix②	㋮Mix③	㋮Mix④	㋮Mix⑤			
11：50	㋮MD①	㋮MD②	㋮MD③	㋮MD④	㋮MD⑤	㋮MD⑥	㋮MD⑦	㋮MD⑧
12：40	㋮LS①	㋮LS②	㋮LS③	㋮LS④	㋮LS⑤	㋮LS⑥	㋮LS⑦	㋮LS⑧
13：30					㋮Mix⑥	㋮Mix⑦	㋮Mix⑧	㋮Mix⑨
14：20	㋮MD⑨	㋮MD⑩	㋮MD⑪	㋮MD⑫	㋮MD⑬	㋮MD⑭	㋮MD⑮	㋮MD⑯
15：10	㋮LS⑨	㋮LS⑩	㋮LS⑪	㋮LS⑫	㋮LS⑬	㋮LS⑭	㋮LS⑮	㋮LS⑯
16：00	㋮MD⑰	㋮MD⑱	㋮MD⑲	㋮MD⑳				
16：50					㋮LS⑰	㋮LS⑱	㋮LS⑲	㋮LS⑳

12月21日(水)

時間＼コート番号	1	2	3	4	5	6	7	8
10：00	㋮MS①	㋮MS②	㋮MS③	㋮MS④	㋮MS⑤	㋮MS⑥	㋮MS⑦	㋮MS⑧
10：50	㋮LD①	㋮LD②	㋮LD③	㋮LD④				
11：40	㋮MS⑨	㋮MS⑩	㋮MS⑪	㋮MS⑫	㋮MS⑬	㋮MS⑭	㋮MS⑮	㋮MS⑯
12：30	㋮LD⑤	㋮LD⑥	㋮LD⑦	㋮LD⑧	㋮LD⑨	㋮LD⑩	㋮LD⑪	㋮LD⑫
13：20	㋮MS⑰	㋮MS⑱	㋮MS⑲	㋮MS⑳				
14：10					㋮LD⑬	㋮LD⑭	㋮LD⑮	㋮LD⑯
15：00	Mix①	Mix②	Mix③	Mix④	Mix⑤	Mix⑥	Mix⑦	Mix⑧
15：50	MD①	MD②	MD③	LS①	LS②	LS③	LS④	LS⑤
16：40	Mix⑨	Mix⑩	Mix⑪	Mix⑫				
17：30	MD④	MD⑤	MD⑥	MD⑦	MD⑧	MD⑨	MD⑩	MD⑪

〈国立競技場代々木第2体育館〉

12月22日(木)

時間＼コート番号	1	2	3	4
10：30	LS⑥	LS⑦	LS⑧	LS⑨
11：30	LS⑩	LS⑪	LS⑫	LS⑬
12：30	MD⑫	MD⑬	MD⑭	MD⑮
13：30	LS⑭	LS⑮	LS⑯	LS⑰
14：30	MS①	MS②	MS③	MS④
15：30	MS⑤	MS⑥		
16：30	LD①	LD②	LD③	LD④

12月23日(金)

時間＼コート番号	1	2	3	4
10：30	LD⑤	LD⑥	LD⑦	LD⑧
11：30	LD⑨	LD⑩	LD⑪	LD⑫
12：30	MS⑦	MS⑧	MS⑨	MS⑩
13：30	MS⑪	MS⑫	MS⑬	MS⑭
14：30	LD⑬	LD⑭	LD⑮	LD⑯
15：30	MS⑮	MS⑯	MS⑰	MS⑱

12月24日(土)

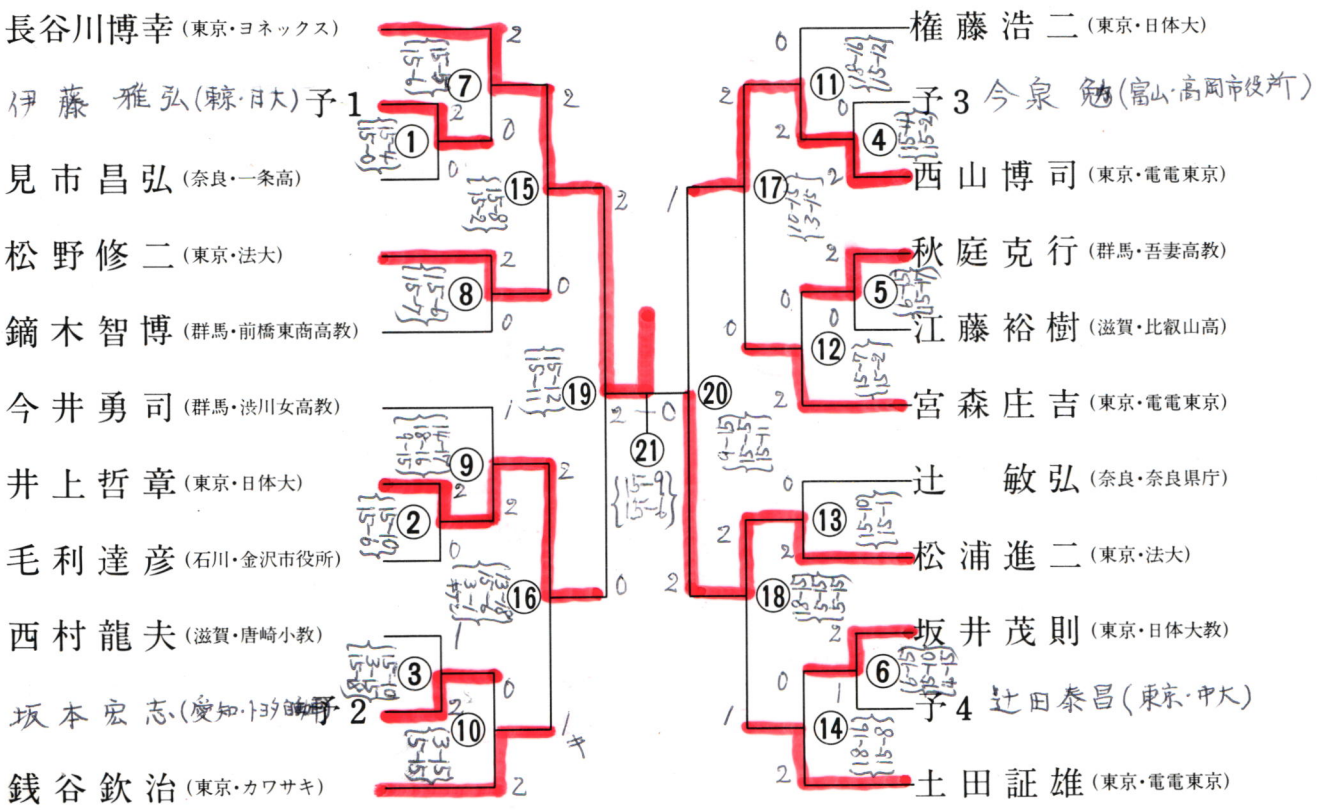
時間＼コート番号	1	2
12：00	MS⑲(準決勝)	MS⑳(準決勝)
13：00	LD⑰(準決勝)	LD⑱(準決勝)
14：00	MS㉑（決勝）	
15：30	LD⑲（決勝）	

12月25日(日)

時間＼コート番号	1	2
11：00	Mix⑬(準決勝)	Mix⑭(準決勝)
12：00	LS⑱(準決勝)	LS⑲(準決勝)
13：00	MD⑯(準決勝)	MD⑰(準決勝)
14：00	Mix⑮（決勝）	
15：00	LS⑳（決勝）	
16：00	MD⑱（決勝）	

男子シングルス組合せ（MS）

※予１～予４は予選会勝者が出場。



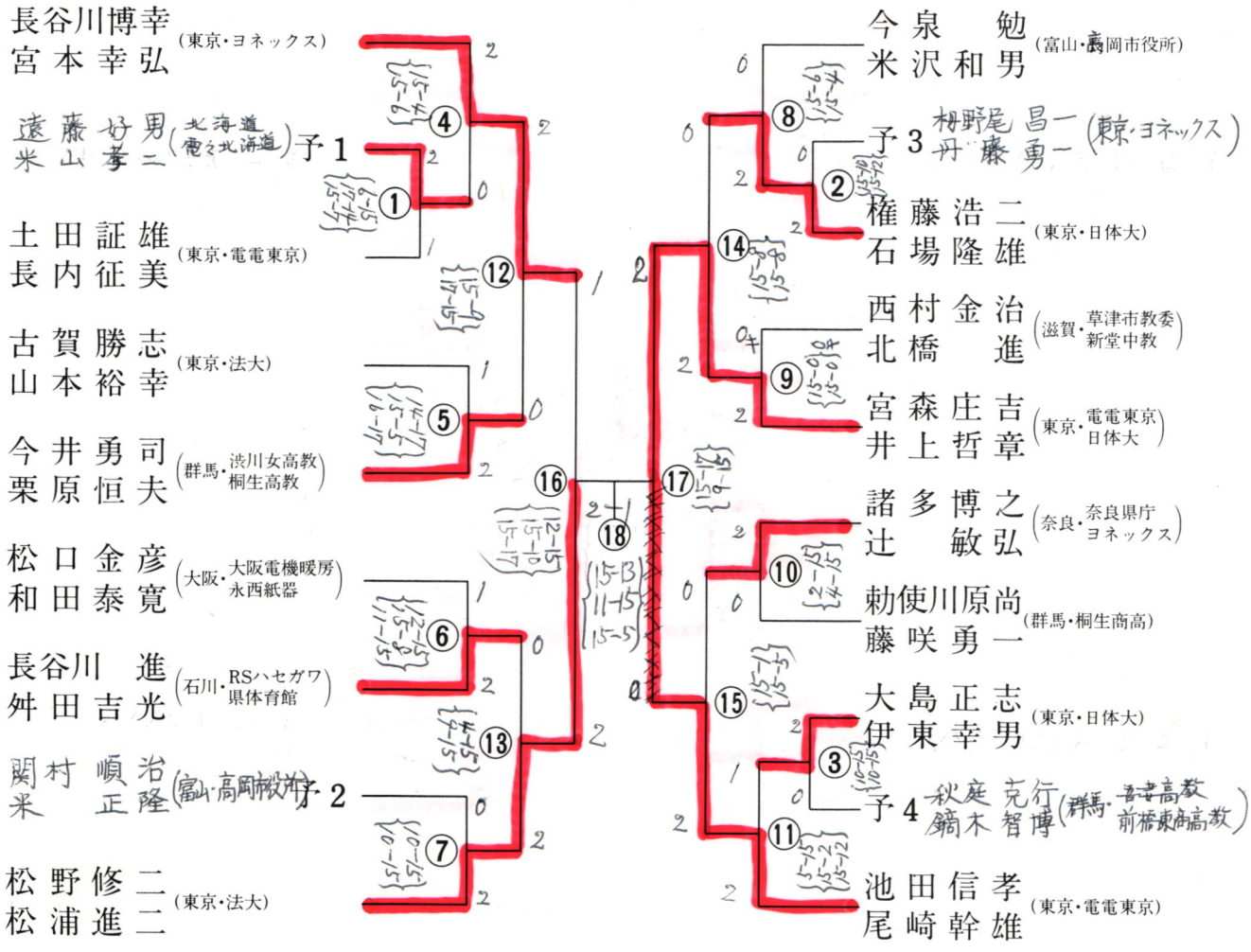
男子シングルス出場選手資料（アイウエオ順）

秋庭克行（S31.4.2） 群馬県・吾妻高教員 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8 第22回全日本教職員〈単〉ベスト4	権藤浩二（S37.2.21） 東京都・日体大 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト4 ○第34回全日本学生〈単〉準優勝	西村龍夫（S28.1.17） 滋賀県・唐崎小教員 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8 第22回全日本教職員〈単〉ベスト4	見市昌弘（S40.11.20） 奈良県・一条高 ○第34回全国高校〈単〉準優勝
井上哲章（S38.2.15） 東京都・日体大 ○第34回全日本学生〈単〉ベスト4	坂井茂則（S35.2.9） 東京都・日体大教員 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト4 ○第22回全日本教職員〈単〉準優勝	西山博司（S35.2.19） 東京都・電電東京 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト4	宮森庄吉（S33.2.5） 東京都・電電東京 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト8
今井勇司（S24.5.6） 群馬県・渋川女子高教員 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8	銭谷欽治（S28.3.12） 東京都・カワサキラケット ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト4 ○第26回全日本社会人〈単〉優勝	長谷川博幸（S32.1.19） 東京都・ヨネックス ○昭和57年度全日本総合〈単〉優勝	毛利達彦（S34.10.15） 石川県・金沢市役所 ○第26回全日本社会人〈単〉準優勝
江藤裕樹（S41.12.16） 滋賀県・比叡山高 ○第34回全国高校〈単〉優勝	辻 敏弘（S30.3.5） 奈良県・奈良県庁 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト8	松浦進二（S39.2.15） 東京都・法政大学 ○第34回全日本学生〈単〉優勝	
鏑木智博（S31.11.12） 群馬県・前橋東商高教員 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8 ○第22回全日本教職員〈単〉優勝	土田証雄（S28.9.9） 東京都・電電東京 ○昭和57年度全日本総合〈単〉準優勝	松野修二（S38.9.11） 東京都・法政大学 ○第34回全日本学生〈単〉ベスト4	

○印＝出場資格をえた競技大会

男子ダブルス組合せ(MD)

※予1～予4は予選会勝者が出場。



男子ダブルス出場選手資料 (アイウエオ順)

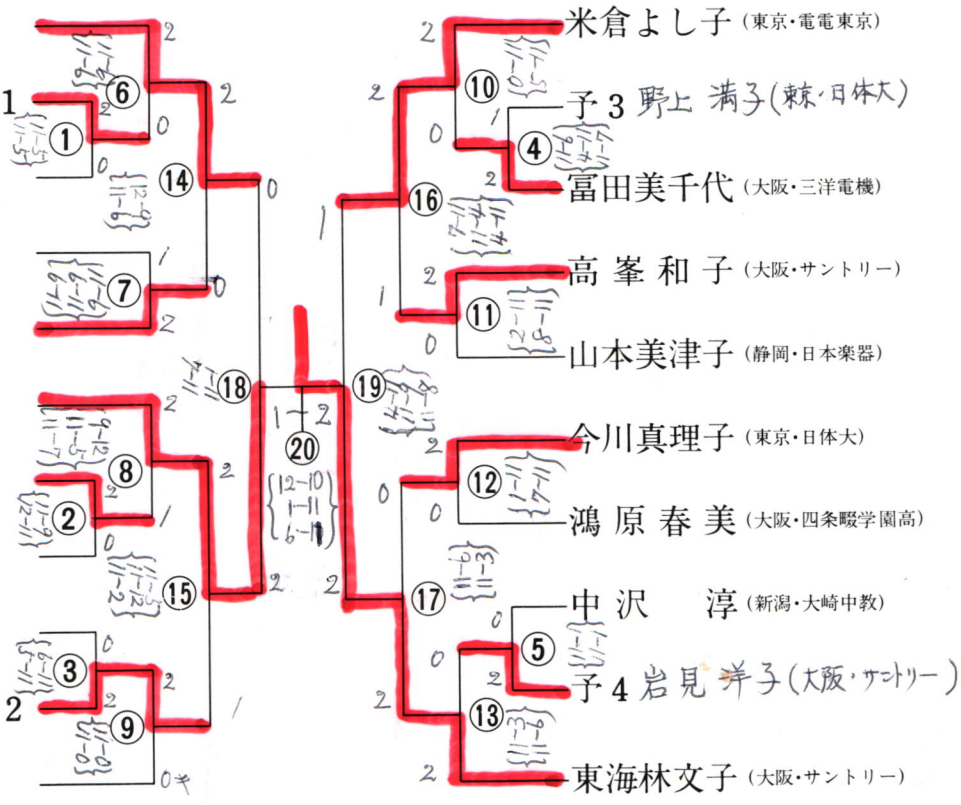
池田信孝／尾崎幹雄 (S22.2.3) (S27.2.22) 東京都・電電東京 東京都・電電東京 ○昭和57年度全日本総合〈複〉ベスト4 ○第26回全日本社会人〈複〉準優勝	権藤浩二／石場隆雄 (S37.2.21) (S36.7.19) 東京都・日体大 東京都・日体大 ○第34回全日本学生〈複〉準優勝	長谷川博幸／宮本幸弘 (S32.1.19) (S34.9.22) 東京都・ヨネックス 東京都・ヨネックス ○昭和57年度全日本総合〈複〉優勝 ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト4
今井勇司／栗原恒夫 (S24.5.6) (S30.3.12) 群馬県・渋川女子高教員 群馬県・桐生高教員 ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト8 ○第22回全日本教職員〈複〉優勝	土田証雄／長内征美 (S28.9.9) (S39.6.27) 東京都・電電東京 東京都・電電東京 (財)日本バドミントン協会選手強化本部推薦	松口金彦／和田泰寛 (S28.10.10) (S23.8.7) 大阪府・大阪電機暖房 大阪府・永西紙器 ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト8
今泉勉／米沢和男 (S23.12.9) (S26.3.2) 富山県・高岡市役所 富山県・高岡市役所 ○昭和57年度全日本総合〈複〉ベスト4 ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト4	勅使川原尚／藤咲勇一 (S41.1.18) (S40.9.28) 群馬県・桐生商高 群馬県・桐生商高 ○第34回全国高校〈複〉優勝	松野修二／松浦進二 (S38.9.11) (S39.2.15) 東京都・法政大学 東京都・法政大学 ○昭和57年度全日本総合〈複〉ベスト8 ○第34回全日本学生〈複〉優勝
大島正志／伊東幸男 (S37.4.12) (S38.4.6) 東京都・日体大 東京都・日体大 (財)日本バドミントン協会選手強化本部推薦	西村金治／北橋進 (S31.12.2) (S34.1.28) 滋賀県・草津市教委 滋賀県・新堂中教員 ○第22回全日本教職員〈複〉準優勝	宮森庄吉／井上哲章 (S33.2.5) (S38.2.15) 東京都・電電東京 東京都・日体大 (財)日本バドミントン協会選手強化本部推薦
古賀勝志／山本裕幸 (S38.3.16) (S37.12.27) 東京都・法政大学 東京都・法政大学 ○第34回全日本学生〈複〉ベスト4	長谷川進／舛田吉光 (S22.11.22) (S29.7.14) 石川県・RSハセガワ 石川県・県体育館 ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト8	諸多博之／辻敏弘 (S33.7.22) (S30.3.5) 奈良県・ヨネックス 奈良県・奈良県庁 ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト8

○印＝出場資格をえた競技大会

女子シングルス組合せ(LS)

※予1～予4は予選会勝者が出場。

北田スミ子（大阪・三洋電機）
葛西 明子（大阪・サントリー）予1
小泉陽子（兵庫・園田学園高）
平間真由美（東京・日体大）
西村美千代（大阪・サントリー）
河本小織（岡山・松本組）
松田太嘉子（大阪・四条畷短大）
中島真美（東京・日体大）
白松千加子（静岡・日本楽器）
月岡広美（東京・ヨネックス）予2
河村茂美（大阪・三洋電機）



米倉よし子（東京・電電東京）
予3 野上 満子（東京・日体大）
冨田美千代（大阪・三洋電機）
高峯和子（大阪・サントリー）
山本美津子（静岡・日本楽器）
今川真理子（東京・日体大）
鴻原春美（大阪・四条畷学園高）
中沢 淳（新潟・大崎中教）
予4 岩見洋子（大阪・サントリー）
東海林文子（大阪・サントリー）

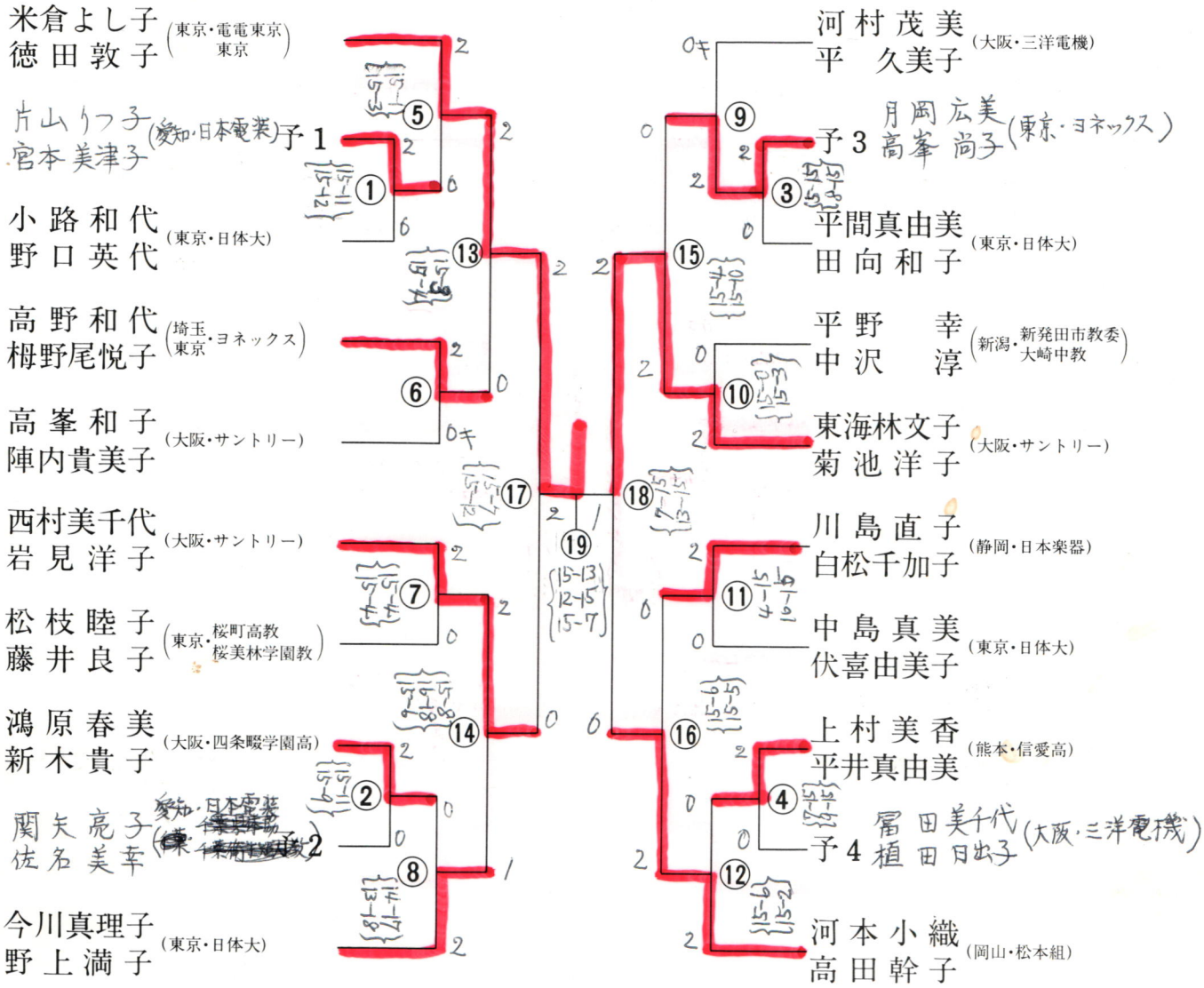
女子シングルス出場選手資料（アイウエオ順）

今川真理子（S38.3.17） 東京都・日体大 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト8 ○第34回全日本学生〈単〉ベスト4	**河本小織**（S31.3.18） 岡山県・松本組 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト8 第14回全日本レディーズ・チャンピオン 優勝 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8	**中沢 淳**（S33.2.19） 新潟県・大崎中教員 ○第22回全日本教職員〈単〉準優勝	**山本美津子**（S34.2.2） 静岡県・日本楽器 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト8
河村茂美（S34.4.18） 大阪府・三洋電機 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト4	**白松千加子**（S35.10.2） 静岡県・日本楽器 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8	**中島真美**（S39.10.9） 東京都・日体大 ○第34回全日本学生〈単〉ベスト4	**米倉よし子**（S33.2.7） 東京都・電電東京 ○昭和57年度全日本総合〈単〉ベスト4 第14回全日本レディーズ・チャンピオン準優勝 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト4
北田スミ子（S37.3.31） 大阪府・三洋電機 ○昭和57年度全日本総合〈単〉優勝 ○第26回全日本社会人〈単〉優勝	**高峯和子**（S37.9.26） 大阪府・サントリー ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8	**西村美千代**（S37.1.11） 大阪府・サントリー ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト4	
小泉陽子（S40.12.30） 兵庫県・園田学園高 ○第34回全国高校〈単〉準優勝	**東海林文子**（S33.4.11） 大阪府・サントリー ○昭和57年度全日本総合〈単〉準優勝 ○第26回全日本社会人〈単〉準優勝	**平間真由美**（S39.3.25） 東京都・日体大 ○第34回全日本学生〈単〉優勝	
鴻原春美（S40.6.24） 大阪府・四条畷学園高 ○第34回全国高校〈単〉優勝	**冨田美千代**（S37.2.5） 大阪府・三洋電機 ○第26回全日本社会人〈単〉ベスト8	**松田太嘉子**（S40.1.25） 大阪府・四条畷学園女子短大 ○第34回全日本学生〈単〉準優勝	

○印＝出場資格をえた競技大会

女子ダブルス組合せ(LD)

※予1～予4は予選会勝者が出場。



女子ダブルス出場選手資料 (アイウエオ順)

今川真理子／野上満子 (S38.3.17) (S37.10.13) 東京都・日体大 東京都・日体大 ○昭和57年度全日本総合〈複〉ベスト8 ○第34回全日本学生〈複〉準優勝	鴻原春美／新木貴子 (S40.6.24) (S42.3.22) 大阪府・四条畷学園高 大阪府・四条畷学園高 ○第34回全国高校〈複〉優勝	高峯和子／陣内貴美子 (S37.9.26) (S39.3.17) 大阪府・サントリー 大阪府・サントリー ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト8	平野幸／中沢淳 (S32.2.1) (S33.2.11) 新潟県・新発田市教委 新潟県・大崎中教員 ○第22回全日本教職員〈複〉準優勝
上村美香／平井真由美 (S40.10.30) (S41.10.28) 熊本県・熊本信愛高 熊本県・熊本信愛高 ○第34回全国高校〈複〉準優勝	河本小織／高田幹子 (S31.3.18) (S30.10.14) 岡山県・松本組 岡山県・松本組 ○昭和57年度全日本総合〈複〉準優勝	東海林文子／菊池洋子 (S33.4.11) (S36.9.6) 大阪府・サントリー 大阪府・サントリー ○第26回全日本社会人〈複〉準優勝	平間真由美／田向和子 (S39.3.25) (S38.7.20) 東京都・日体大 東京都・日体大 ○第34回全日本学生〈複〉優勝
川島直子／白松千加子 (S34.9.11) (S35.10.2) 静岡県・日本楽器 静岡県・日本楽器 ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト8	小路和代／野口英代 (S37.3.29) (S36.4.8) 東京都・日体大 東京都・日体大 ○第34回全日本学生〈複〉ベスト4	中島真美／伏喜由美子 (S39.10.9) (S39.11.14) 東京都・日体大 東京都・日体大 ○第34回全日本学生〈複〉ベスト4	松枝睦子／藤井良子 (S34.2.7) (S33.8.13) 東京都・桜町高教員 東京都・桜美林学園教員 ○第22回全日本教職員〈複〉優勝
河村茂美／平久美子 (S34.4.18) (S35.3.3) 大阪府・三洋電機 大阪府・三洋電機 ○昭和57年度全日本総合〈複〉ベスト8	高野和代／栂野尾悦子 (S34.8.30) (S25.1.6) 埼玉県・ヨネックス 東京都・ヨネックス ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト8	西村美千代／岩見洋子 (S37.1.11) (S37.1.13) 大阪府・サントリー 大阪府・サントリー ○第26回全日本社会人〈複〉ベスト4	米倉よし子／徳田敦子 (S33.2.7) (S30.9.15) 東京都・電電東京 東京都・ ○昭和57年度全日本総合〈複〉優勝 ○第26回全日本社会人〈複〉優勝

○印＝出場資格をえた競技大会

混合ダブルス組合せ（MIX）

※予１～予４は予選会勝者が出場。

辻　敏弘・松村順子（奈良・奈良県庁／香川）

和田泰寛・葛西明子（大阪・永西紙器／サントリー）　予１

落合久夫・藤井良子（東京・高輪高教／桜美林学園教）

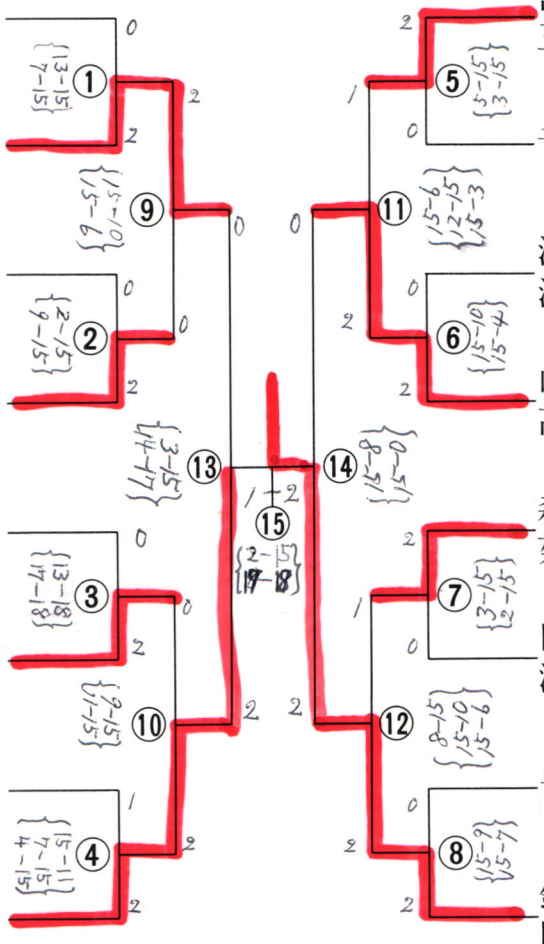
松口金彦・星　和枝（大阪・大阪電機暖房／サントリー）

山下圭一・土田理恵子（新潟・青陵高教／小針中教）

斉藤敏行・平　久美子（福岡・カワサキ／大阪・三洋電機）

日下　昇・岡本昌子（香川・百十四銀行）　予２

栂野尾昌一・栂野尾悦子（東京・ヨネックス）



宮森庄吉・三田知佳子（東京・電電東京）

大場和博・小菅智子（千葉・ピークスポーツ）　予３

酒井直人・酒井成美（石川・ゴーセン／北陸財務局）

山本　清・高田幹子（岡山・三井造船／松本組）

森下一夫・菊池洋子（大阪・サントリー）

田部井秀郎・深井規子（埼玉・淑徳与野高教／大宮泰平中教）

遠藤好男・小池かおり（北海道・電電北海道／地崎工業）　予４

鈴木　裕・関根和子（新潟・三条機械／県体育協会）

混合ダブルス出場選手資料（アイウエオ順）

落合久夫／藤井良子 （S31.3.5）東京都・高輪高教員 （S33.8.13）東京都・桜美林学園教員 ○第26回全日本社会人〈混合複〉ベスト８	田部井秀郎／深井規子 （S34.11.20）埼玉県・淑徳与野高教員 （S35.2.24）埼玉県・大宮泰平中教員 ○第22回全日本教職員〈混合複〉準優勝	宮森庄吉／三田知佳子 （S33.2.5）東京都・電電東京 （S35.11.7）東京都・電電東京 ○昭和57年度全日本総合〈混合複〉ベスト４
斉藤敏行／平　久美子 （S27.2.18）福岡県・カワサキラケット （S35.3.3）大阪府・三洋電機 ○第26回全日本社会人〈混合複〉ベスト８	辻　敏弘／松村順子 （S30.3.5）奈良県・奈良県庁 （S33.7.30）旧姓徳永 香川県・琴平電鉄 ○昭和57年度全日本総合〈混合複〉優勝	森下一夫／菊池洋子 （S31.12.25）大阪府・サントリー （S36.9.6）大阪府・サントリー ○第26回全日本社会人〈混合複〉ベスト８
酒井直人／酒井成美 （S32.11.6）石川県・ゴーセン （S37.2.5）旧姓森 石川県・北陸財務局 ○第26回全日本社会人〈混合複〉ベスト８	栂野尾昌一／栂野尾悦子 （S22.8.19）東京都・ヨネックス （S25.1.6）東京都・ヨネックス ○昭和57年度全日本総合〈混合複〉ベスト４ ○第26回全日本社会人〈混合複〉優勝	山下圭一／土田理恵子 （S35.1.12）新潟県・青陵高教員 （S35.3.1）新潟県・小針中教員 ○第22回全日本教職員〈混合複〉優勝
鈴木　裕／関根和子 （S28.2.25）新潟県・三条機械 （S31.11.15）新潟県・県体育協会 ○昭和57年度全日本総合〈混合複〉準優勝 ○第26回全日本社会人〈混合複〉ベスト４	松口金彦／星　和枝 （S28.10.10）大阪府・大阪電気暖房 （S39.11.26）大阪府・サントリー ○第26回全日本社会人〈混合複〉準優勝	山本　清／高田幹子 （S31.3.29）岡山県・三井造船玉野 （S30.10.14）岡山県・松本組 ○昭和57年度全日本総合〈混合複〉ベスト８ ○第26回全日本社会人〈混合複〉ベスト４

○印＝出場資格をえた競技大会

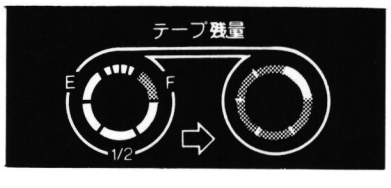
SANYO



新機構 テープ残量表示
高画質 クリーンスチル&スロー

〈テープ残量くるくる表示〉

最新機能でビデオがまたひとつ進化した。録画、再生時のテープ走行位置をマイコンセンサーが検知して、赤と緑でひと目でわかるグラフィック表示をしてくれます。



〈話題のクリーンスチル&スロー〉

鮮明画質を徹底して追求。βII・βIIIどちらのモードでもノイズやブレのないクリーンな静止画、スロー、コマ送りを新開発のピクチャークリーン、PCヘッドが実現しました。多彩で美しいビジュアルプレイが鮮明な画像でおおいに楽しめます。

〈16機能ものワイヤレスリモコン〉

部屋のどこからでも自由にコントロールできるリモコンパワー。早送り、巻戻し、正逆サーチ、静止画、逆転再生など、16の機能をリモコンで操作。お手元で自由自在、便利さ満載の多機能ワイヤレスリモコンです。●順に押すだけ簡単操作の2週間8番組予約タイマー●使いやすいキーボード感覚の操作ボタン●12局ソフトタッチチューナー●メモリー機能つき電子カウンター●自動的に巻戻しを開始するオートリワインド機構●フロントローディング方式●スリープ録画機構●高さ11.7cmのスリムなボディ

MICONIC M3

VTC-M3(S)シルバー・(K)ブラック 標準価格165,000円
(ワイヤレスリモコンつき)

Beta β

サンヨーホームビデオ

録画再生について●このビデオはβ方式のビデオです。βマークのついたビデオテープ以外使用できません。●βIIIモード(テープ速度1.33cm/sec)で録画したテープは、βIIモード(テープ速度2cm/sec)専用のビデオで再生できません。●このビデオで録画したテープは、β方式の当社およびソニー、東芝、新日本電気、ゼネラル(順不同)各社のビデオのβII、βIII各モード毎に相互に互換性があります。●あなたがビデオで録画したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

三洋電機株式会社 上手に使って上手に節電

※お願い——サンヨーホームビデオには保証書がついています。ご購入の際、必ずご購入年月日、販売店名などの所定事項の記入及び、記載内容をご確認のうえ、お受け取りになり大切に保存してください。

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS

これが攻撃曲線だ。

軽いフレームが鋭い反発力を生むバランス設計を実現した。

ただ単にラケットを軽量化することはやさしい。しかし強靱な反発力と軽さを両立させるためには多くのテクノロジーが必要だった。〈エルブリット〉は、フレーム中央から先端にかけて薄くなる独自のエアリフト構造。このフレームの軽量化により、最も高反発力を生むシャフトの位置に曲げ支点を持たせることに成功。理想的にしなる10層構造シャフトとともに、かってない攻撃力を発揮させます。



エルブリットAC-Ⅳ
¥9,800(ケース付) 7TB-0002
オールラウンドタイプ
●カラー／黄、赤 ●重量／94g以下、95～99g
●グリップサイズ／2、3、4

elbullet®

軽い、強い、一体成型方式カーボンコンポジット、3モデル登場。

バドミントンプレイヤー、ひとりひとりの個性、タイプを最大限に生かすラケットを。ヤマハがスポーツの様ざまな分野で培ってきたCFRP技術を投入し、つくりあげたカーボンコンポジットシリーズ3モデル。カーボンフレームとカーボンシャフトを一体成型することによって、パワー伝達性、方向安定性、反発力、そしてスイートスポットの広さ、ヒット時の手応えなどすべてを高いレベルで調和しました。ハードヒッターもテクニシャンもシビアに選べば、ヤマハ。

YAMAHA BADMINTON RACKET



CARBON COMPOSITE

YB200（シュガーブルー・シュガーレッド）
振動吸収性のよさで定評の発泡ウレタンコア構造のカーボンフレームと、ハイフレキシブルシャフトの組み合せによる高度なコントロール性。ヒット時の感触のよさ、スイートスポットの広さも自慢。テクニシャン向けモデル。
●価格：¥12,000（カバー付）

CARBON COMPOSITE

YB300
超高強度のスーパーカーボンで補強したフレームと、適度なシナリのシャフト。独自の一体成型方式により、パワーの伝達性、方向の安定性もいちだんと向上。オールコートプレイヤーのあらゆるテクニックに応えます。
●価格：¥14,000（カバー付）

SUPER CARBON COMPOSITE

YB500
超高強度のスーパーカーボンフレームとフレキシブルシャフトの一体化が、高反発力と抜群の面の安定性を実現。超軽量ウェイトとあいまって、シャープな振り抜きが可能。ハードヒッター向け最高級モデル。
●価格：¥16,000（カバー付）　12月発売予定

●グリップサイズ：3½(2)・3¾(3)・3¾(4)
●重さ：XXSL（85～89g）・XSL（90～94g）

選べば、ヤマハ。

YAMAHA

バドミントン
マガジン

定価500円

毎月16日発売

ひとつのエース・ショットに
限りない努力がある。

ひとつの勝利に
限りない
情熱がある。

熱き青春を
記録する
バドミントン・マガジン



★バドミントン・マガジン 2月号は
熱戦特報!
全日本総合選手権
全日本ジュニア選手権
★1月20日発売./

バドミントンマガジンは
わが国唯一の専門月刊誌です。

ベースボール・マガジン社 〒101東京都千代田区神田錦町3-3☎03(291)7901

大会日程

日時 ＼ 種目 / 会場	男子シングルス	男子ダブルス	女子シングルス	女子ダブルス	混合ダブルス
12/20(火) 開場 10:00AM	駒沢 オリンピック公園 体育館		予選会	予選会		予選会
12/21(水) 開場 9:00AM	〃	予選会	1回戦 2回戦	1回戦	予選会	1回戦 2回戦
12/22(木) 開場 9:30AM	国立競技場 代々木第2 体育館	1回戦	3回戦	2回戦 3回戦	1回戦	
12/23(金) 開場 9:30AM	〃	2回戦 3回戦			2回戦 3回戦	
12/24(土) 開場 11:00AM	〃	準決勝 決勝			準決勝 決勝	
12/25(日) 開場 10:00AM	〃		準決勝 決勝	準決勝 決勝		準決勝 決勝

会場案内

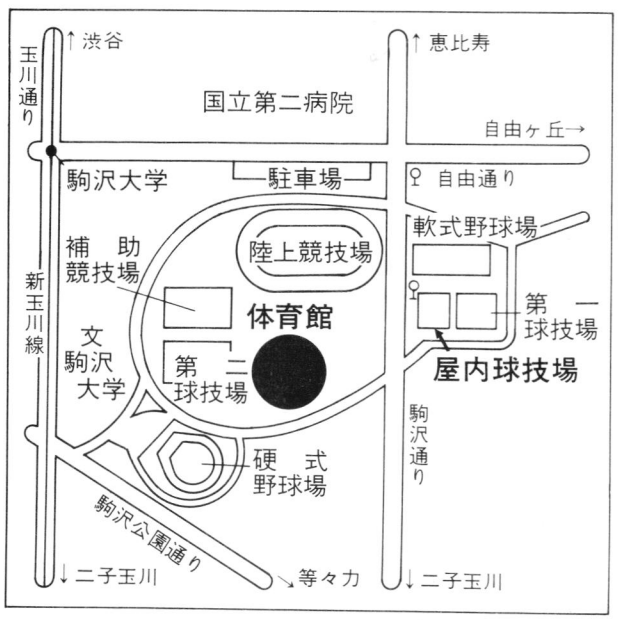
駒沢オリンピック公園体育館

大会本部　TEL 03(422) 6942

東京都世田ヶ谷区駒沢公園１－１　TEL 03(421)6121

地下鉄　新玉川線　駒沢大学駅下車　徒歩12分

バス　①恵比寿駅より祖師ヶ谷大蔵行・駒沢公園下車
②渋谷駅より田園調布行・駒沢公園東口または病院前下車
③渋谷駅より等々力行・駒沢営業所下車
④目黒駅より駒沢営業所行・病院前または駒沢公園東口下車



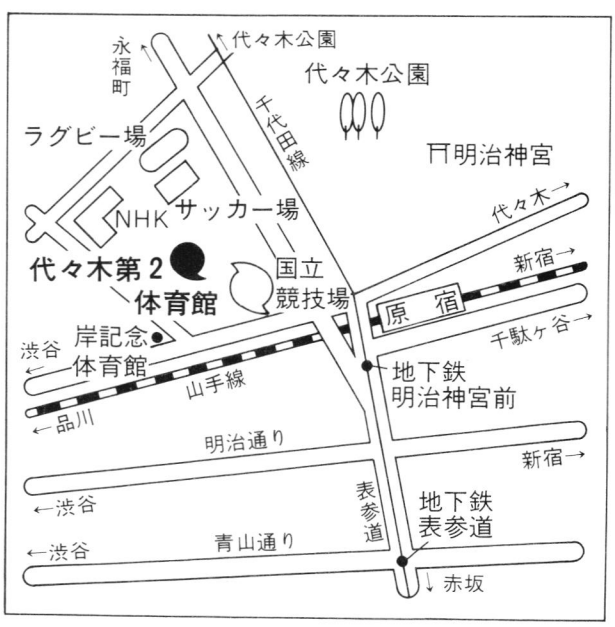
国立競技場代々木第２体育館

大会本部　TEL 03(469) 4285

東京都渋谷区神南２－１　TEL 03(468)1171

国　電　山手線原宿駅下車　徒歩５分
〃　渋谷駅下車　〃　10分

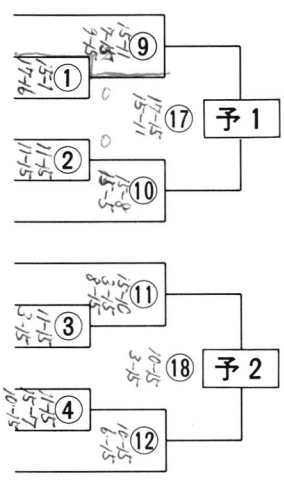
地下鉄　明治神宮前下車　徒歩５分
渋谷駅下車　〃　10分
代々木八幡駅下車　〃　10分



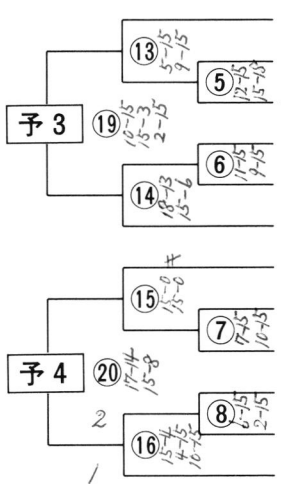
予選会組合せ

男子シングルス〈MS〉

梅野尾昌一（東京・ヨネックス）
伊藤雅弘（東京・日大）
本郷毅彦（奈良・田原本町役場）
本田浩二（東京・法大）
若林邦任（岡山・三井造船玉野）
蘭　和真（岐阜・東海女子大教）
山本裕幸（東京・法大）
佐藤　浩（兵庫・市尼崎高）
須藤　茂（青森・RSストウ）
千葉昌弘（北海道・電電北海道）
柳谷辰哉（東京・日大）
坂本宏志（愛知・トヨタ自動車）

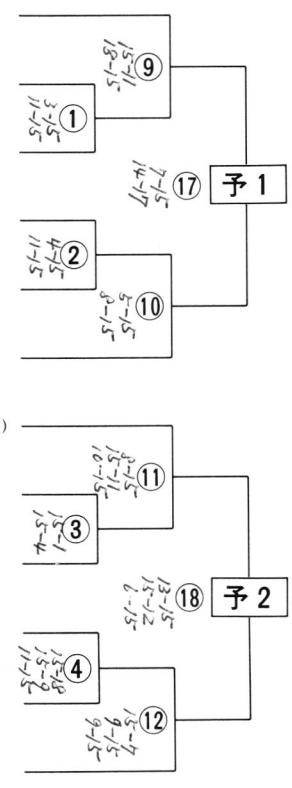


今泉　勉（富山・高岡市役所）
大瀬久司（東京・中大）
佐々木靖雄（神奈川・関東自工）
小飼清統（東京・法大）
滝川　修（山梨・甲府南高教）
酒井直人（石川・ゴーセン北陸）
北橋　進（滋賀・新堂中教）
山本　浩（鳥取・山陰アシックス）
貴田　覚（東京・日体大）
辻田泰昌（東京・中大）
増田　昭（長野・ヤナ電装）
長谷川　進（石川・RSハセガワ）

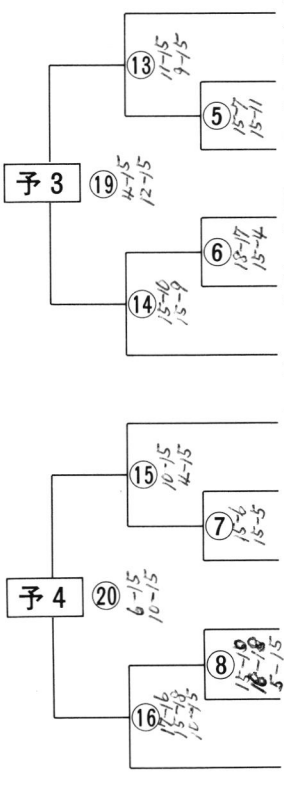


男子ダブルス〈MD〉

鈴木　裕（新潟・三条機械／新潟青陵高教）
山下圭一
尾山隆啓（奈良・生駒市役所／上牧中教）
嘉生　寛
坂本宏志（愛知・トヨタ自動車）
山本秀樹
村尾勉（京都・同大）
松田英雄
滝川　修（山梨・甲府商高教／赤池晶光堂）
赤池　稔
遠藤好男（北海道・電電北海道）
米山孝二
大場和博（千葉・ピークスポーツ）
織本富之
峯　寛文（香川・太田南小教／尽誠学園高教）
六川康利
須藤　茂（青森・RSストウ／黒石市役所）
村元英美
小飼清統（東京・法大）
本田浩二
吉岡伸浩（奈良・正強高教／田原本町役場）
本郷毅彦
関村順治（富山・高岡市役所）
米　正隆

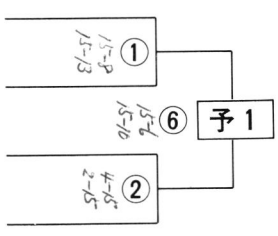


梅野尾昌一（東京・ヨネックス）
丹藤勇一
宮　康二（山梨・日川高）
志村裕喜
出石　勉
山本　浩（鳥取・西部健康センター／山陰アシックス）
岡野佳浩（東京・法大）
貴田昌史
近藤雅明（大阪・近大）
竹端英夫
高岡　桂（福井・芦原中教／足羽高教）
神戸　照
秋庭克行（群馬・吾妻高教／前橋東商高教）
鏑木智博
藤原道弘（岡山・川崎製鉄水島）
平田重男
宮坂　満（東京・日大）
伊藤雅弘
後藤和之（静岡・JATCO）
芹沢英彦
水内　浩（石川・医王山中教／金城高教）
西川慎一
楠美誠悦（千葉・カワサキラケット）
銭谷欽治（東京・カワサキラケット）

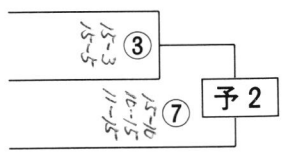


混合ダブルス〈MIX〉

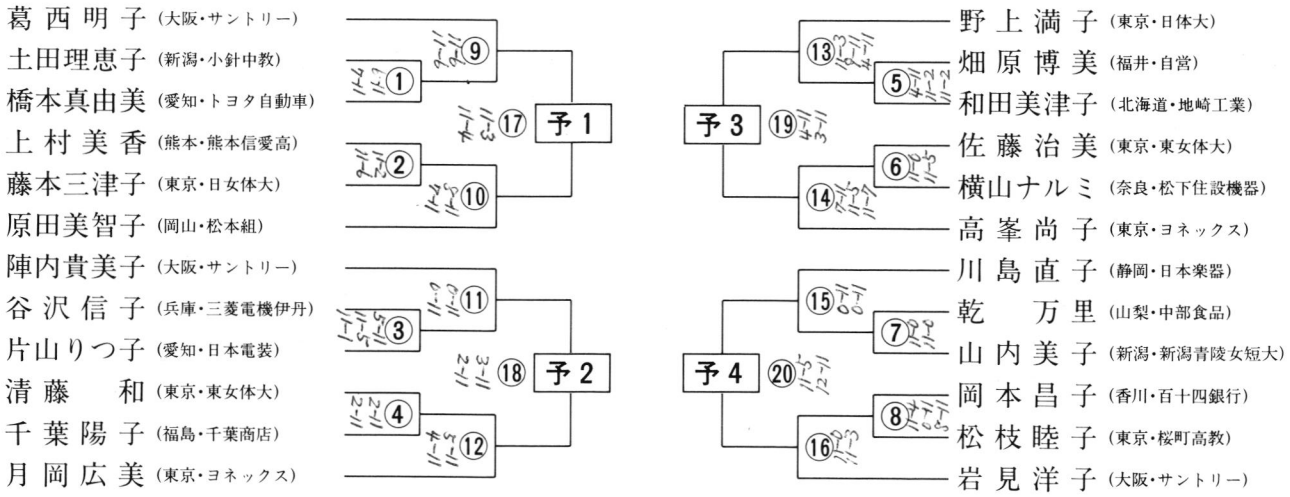
和田泰寛（大阪・永西紙器／サントリー）
葛西明子
神戸　照（福井・足羽高教／自営）
畑原博美
平松重吉（兵庫・新日鉄広畑／住友金属尼崎）
巽　園代
池田光宏（静岡・富士フィルム／日本楽器）
原田純子



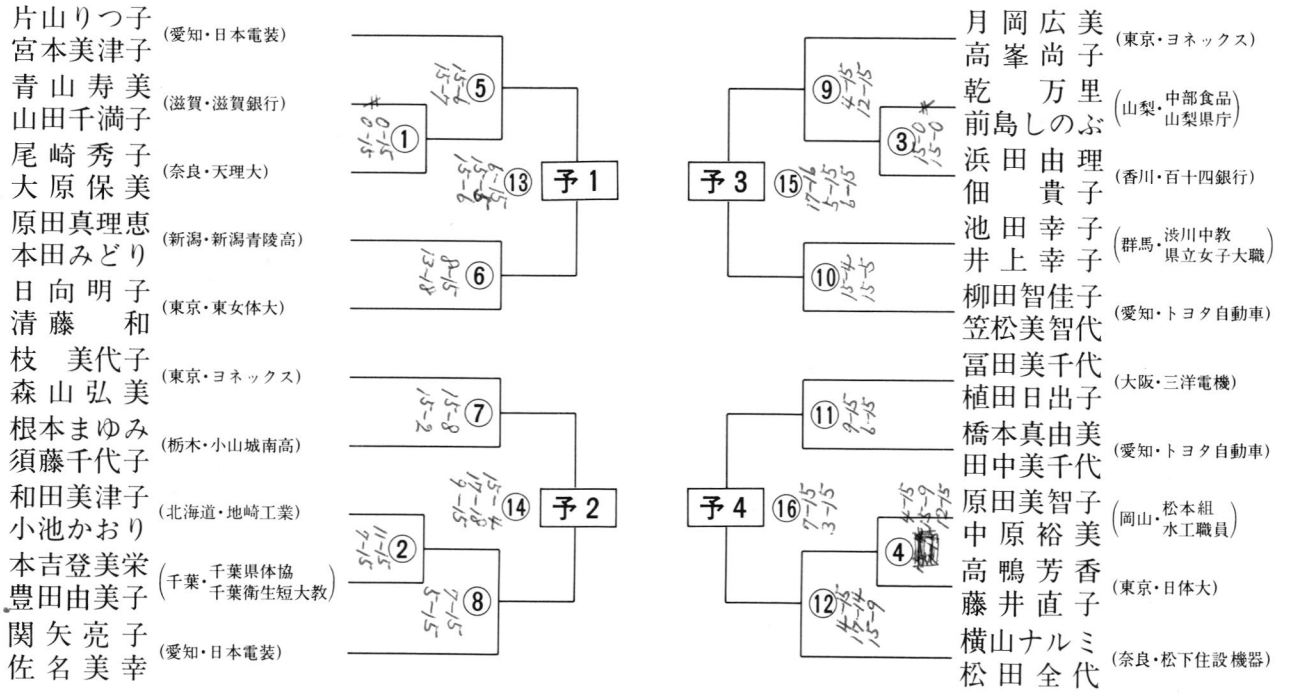
田所光男（宮城・電電東北／東北福祉大）
西本秀子
平　敏司（神奈川・横浜市役所／関東自工）
遠藤美智子
日下　昇（香川・百十四銀行）
岡本昌子



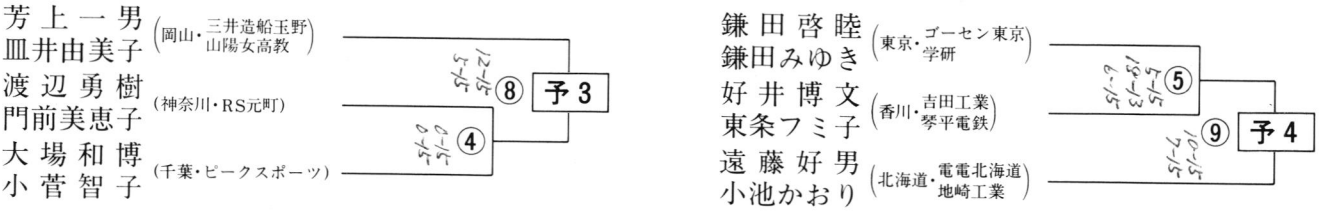
女子シングルス〈LS〉



女子ダブルス〈LD〉



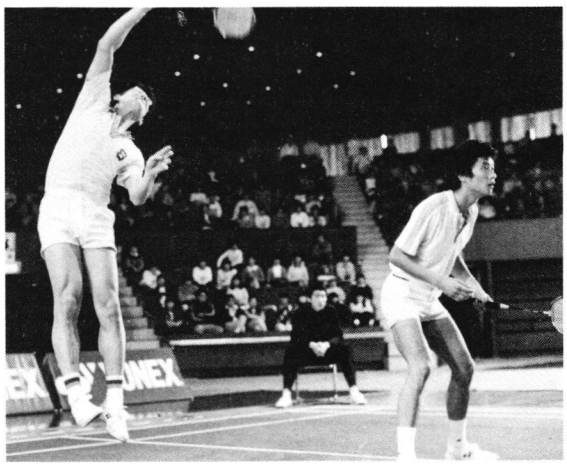
混合ダブルス〈MIX〉



栄光の大会を制した選手たち 〈前年度優勝者〉



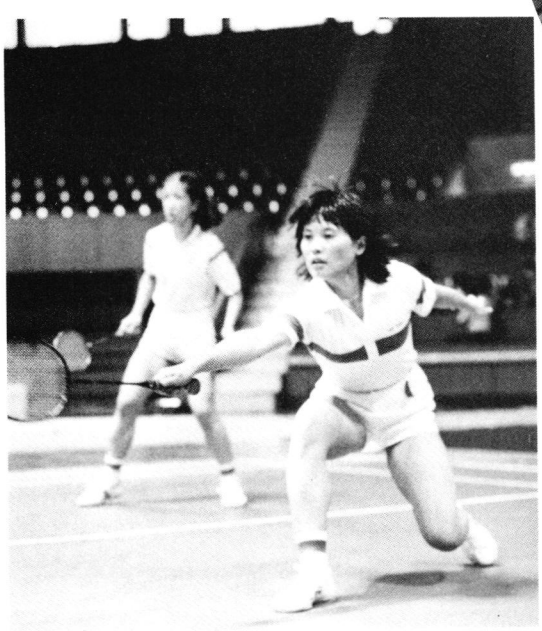
男子シングルス　長谷川博幸



男子ダブルス　長谷川博幸・宮本幸弘



女子シングルス
北田スミ子



女子ダブルス　米倉よし子・徳田敦子



混合ダブルス　辻　敏弘・徳永順子

全日本総合バドミントン選手権大会

歴代優勝者年表

（昭和34年度までは全日本選手権大会・昭和35年度以降現大会名で今日に至る。）

種目 / 年度	男子 シングルス	男子 ダブルス	女子 シングルス	女子 ダブルス	混合ダブルス
昭和					
22年	岡　淳一	広田敏秀・藤井光男	中村たき	川俣千枝子・中村たき	森　勇・岡　広子
23	〃	〃・〃	吉田とよ子	〃・〃	E・エマール・川俣千枝子
24	〃	岡　淳一・相馬万吉	〃	吉田とよ子・田村知江子	山田康久・田村知江子
25	〃	岡　淳一・岡　道明	遠藤文子	遠藤文子・小林歌子	〃・〃
26	広田敏秀	広田敏秀・岡　道明	登　悦子	堀江綾子・保田久子	渋谷弘敏・小島　信
27	〃	吉原秀雄・藤井昂一	吉田光子	遠藤文子・荒川とみ子	〃・〃
28	望月文雄	佐藤芳朗・山崎茂高	荒川とみ子	小林歌子・荒川とみ子	〃・〃
29	上田益弘	片石兼敏・加藤正則	※1 大川良子	大川良子・藤田光子	上谷茂己・小沢良美
30	片石兼敏	片石兼敏・加藤正則	権田節子	戸田寿子・小林桂子	小飼栄一・本庄純子
31	佐藤芳朗	片石兼敏・永井栄一	横井キヌエ	大川良子・小林歌子	石原利道・戸田寿子
32	永井栄一	永井栄一・並木伸裕	田島外茂子	田島外茂子・宮川ツヤエ	
33	佐藤芳朗	〃・〃	〃	田島玲子・高島洋子	貝戸　肇・諸田みや子
34	板垣隆房	山田善康・中村　智	〃	田島外茂子・山崎紀久子	北島克英・有木とみ子
35	小宮好雄	沢田　力・森　晃一	橘　美智子	高橋泰子・長野文子	毛利清志・根岸　純
36	〃	〃・〃	秋山文子	木村政子・横山満子	杉田　博・杉田良子
37	宮永武司	〃・〃	※2 高木紀子	高木紀子・諸田みや子	星野忠男・有木とみ子
38	渡部紘一	鈴木幸春・東条義昭	横山文子	有木とみ子・三原弘美	〃・〃
39	宮永武司	堺　栄一・宮永武司	高木紀子	高木紀子・天野博江	〃・〃
40	秋山真男	堺　栄一・宮永武司	横山満子	高木紀子・天野博江	東条義昭・横井文子
41	小島一平	〃・〃	高木紀子	〃・〃	小宮好雄・上野明美
42	〃	秋山真男・小島一平	〃	〃・〃	板垣善憲・太田節子
43	〃	〃・〃	高橋とも子	相沢マチ子・※3 竹中悦子	鈴木健二・有木とみ子
44	〃	〃・〃	※4 湯木博江	〃・〃	〃・〃
45	〃	堺　栄一・梅野尾昌一	竹中悦子	〃・〃	堺　栄一・天野博江
46	梅野尾昌一	鈴木健二・池田信孝	〃	中山紀子・湯木博江	〃・〃
47	小島一平	秋山真男・小島一平	湯木博江	相沢マチ子・竹中悦子	〃・〃
48	〃	池田信孝・梅野尾昌一	〃	〃・〃	梅野尾昌一・竹中悦子
49	銭谷欽治	〃・〃	〃	湯木博恵・池田美加	〃・〃
50	小島一平	飯野佳孝・土田証雄	湯木博江	竹中悦子・植野恵美子	今井茂満・池田美加
51	銭谷欽治	池田信孝・梅野尾昌一	〃	梅野尾悦子・植野恵美子	梅野尾昌一・梅野尾悦子
52	〃	飯野佳孝・土田証雄	※5 近藤小織	徳田敦子・高田幹子	日下　昇・牛田真由美
53	〃	〃・〃	徳田敦子	〃・〃	中井基夫・千葉陽子
54	〃	池田信孝・尾崎幹雄	米倉よし子	米倉よし子・徳田敦子	梅野尾昌一・梅野尾悦子
55	長谷川博幸	飯野佳孝・土田証雄	北田スミ子	〃・〃	中井基夫・端　洋護
56	銭谷欽治	銭谷欽治・西山博司	〃	〃・〃	梅野尾昌一・梅野尾悦子
57	長谷川博幸	長谷川博幸・宮本幸弘	〃	〃・〃	辻　敏弘・※6 徳永順子

※1 杉田良子　※2 中山紀子　※3 梅野尾悦子　※4 湯木博恵　※5 河本小織　※6 松村順子（現在）

バドミントン1983年をふりかえって

東京新聞運動部次長
後藤忠弘

1982～83年シーズンのひとつの特徴として、ジュニア・レベル(中・高校生)の強化に本腰が入ってきたことが挙げられる。

まず『全日本ジュニア選手権』(1982.12.14～15東京)が創設された。ただ、せっかくの試みも「全日本総合とダブる日程」「学校の試験の時期」などが原因でインターハイ上位校の選手が出場できず、今後の改善が望まれた。

この1年間を通じて、高校勢では何人かの〝金の卵〟が栄冠のリストに名をつらね、または地歩を固めた。

全日本ジュニアの男子シングルスでは宮康二(山梨・日川高)が見市昌弘(奈良・一条高)にストレート勝ちで優勝したが、つづく全国高校選抜(3.26～27松江)では逆に見市がフルゲームの末、宮をくだして栄冠をさらった。しかし、高校界最大のイベントである全国高校選手権(8.2～7豊橋)では、宮は準決勝で敗退、見市もまた2年生選手・江藤裕樹(比叡山高)に屈する波乱となった。

女子シングルスで超高校級といわれる鴻原春美(四条畷学園高)は春の選抜を途中棄権したが、夏の選手権では優勝までの6試合をすべてストーレト勝ちで2連覇を飾った。これに先だつジュニアと春の選抜は上村美香(熊本・信愛女高)が勝って〝2冠〟を手にした。

団体戦の男子は春夏ともに比叡山と奈良一条が覇権を争い、春は比叡山、夏は奈良一条が勝って星を分けた。女子は春が信愛女、夏は県予戦で信愛女を破った熊本中央女がそれぞれ栄冠を獲得した。いわゆる〝西高東低〟がいぜんとして続く中で、女子の青森・千葉学園(春秋とも決勝進出)、栃木・小山城南(春ベスト8・夏ベスト4)男子の山梨・日川(春ベスト8・夏ベスト4)など〝東〟の活躍が光った。

全国中学校選抜大会(8.20～22新庄)では熊本勢の強さが改めてクローズアップされた。熊本勢は全6種目のタイトルのうち、男子団体(桜山)をはじめ、男子ダブルス(桜山・紙谷/久住)、女子シングルス(帯山・松尾知美)、女子ダブルス(菊池南・安達/毛利)と4種目まで制し、女子団体でも菊池南が準優勝している。

団体戦で男女の2連覇を狙った茨城・明野は、女子が首尾よく目的を達成したが男子は決勝で破れ涙をのんだ。男子シングルスは三角典生(京都・洛星)が全試合ストレート勝ちで優勝をさらった。

ジュニア選手の国際交流も盛んだった。3月には約10日間、男女各6選手で編成された日本ジュニア選手団が欧州遠征した。目玉の欧州ジュニア選手権では、女子シングルスで上村美香(信愛女高)が、同ダブルスで上村と唯一の中学生選手の佐藤由美子(信愛女中)のコンビが、それぞれ準決勝まで進んだ。

インターハイ直後の8月にも、男女各4選手が日中ジュニア交流に参加、上海で2戦。男子は1勝1敗、女子は2勝した。ただ内容をみると、男子では見市が1敗1分け、宮が2敗・女子の鴻原が1勝1敗、上村1勝1分けで、エース級はいずれも旗色が悪かった。帰国数日後には東京で日韓ジュニア交流大会が開かれたが、男女いずれも日本が苦杯を喫している。このほか、四条畷学園(中・高校)が中国に、兵庫県選抜(中・高校)が韓国に遠征し、強敵の胸を借りている。

こうした一連の交流を通じて、国際経験の差はもちろん、それ以前の問題として体力・気力・技術のいずれの点においても、日本は大きな課題をかかえていることが再確認された。そしてこのことは、同時に、学生・社会人のトップ層にも共通する問題であることを痛感せざるをえない。

学生界では若手に優秀選手を多くもつ法大が、全日本学生選手権(10.21～26岡山)で宿敵日体大を3－0で破って優勝、関東学生秋のリーグ戦の雪辱をとげた。このシーズンを通して、松浦進二・松野修二(ともに法大)の2年生コンビの順当な成長ぶりが収穫だった。松浦は春秋のリーグ戦でともに4勝1敗。この間、春は井上哲章秋は権藤浩二(ともに日体大)に負けただけ。しかし、全日本学生のシングルスでは準決勝で井上・決勝で権藤を連覇、見事に優勝を飾った。また、松浦／松野のペアーはリーグ戦・全日本学生(団体・個人)を通じて無敗を誇っている。

このほか、1年生の柳谷辰哉(日大)・辻田泰昌(中大)の健闘も将来を楽しませた。柳谷は全日本学生でベスト8入りをはたした。

女子でも、2年生の平間真由美(日体大)が秋の関東学生リーグと全日本学生の団体戦に全勝し母校のアベック優勝の原動力となり、余勢をかって全日本学生の個人戦シングルスにも優勝を飾った。

日中学生競技会(8.21東京)には、権藤・松浦・松野に加えて山本裕幸(法大)、女子は野上満子・今川真理子・平間(以上日体大)・日向明子(東女体大)が出場したが、平間がゲームをひとつ取ったほかは、男女ともストレート負け(3－0)というみじめな結果に終った。また8月に香港で第1回のアジア・ユース・トレーニング／コーチ・キャンプが開かれており、日本から男子は柳谷・辻田、女子では平間・田向和子(日体大1年)が参加した。この日程後半に、第1回アジア・ユース大会があり、男子ダブルスで柳谷／辻田組が優勝を飾った。

一年の総決算、57年度全日本総合選手権大会(12.15～19)の男子シングルスは長谷川博幸(ヨネックス)が2年ぶり2度目の優勝をとげ、返り咲きを狙ったベテラン銭谷欽治(カワサキ)は準決勝で姿を消した。また長谷川は宮本幸弘(ヨネックス)と組んだダブルスにも優勝した。しかし、年がかわって全日本社会人(9.3～6奈良県田原本町)では銭谷が王者に復帰、長谷川は5回戦(ベスト16)で早くも姿を消してしまった。長谷川は日本人に珍らしい才能の持ち主だが、本格的な〝時代〟を築くには、まず心身のスタミナ切れを克服しなければならないようだ。

全日本総合は出場資格が厳選されているので、新人がいきなり殊勲というのはなかなか難しいが、それにしても男子シングルスでベスト8に残った学生は権藤ひとりだけというのもさびしかったが、長谷川の決勝の相手が30歳の土田証雄(電電東京)だったことも、いささかさびしかった。若手の奮起が望まれる。

女子の第一人者と目される北田スミ子(三洋電機)は、全日本総合で河本小織(岡山・松本組)・米倉よし子(電電東京)・東海林文子(サントリー)を連破して3連勝。全日本社会人でも米倉・東海林に勝って2連勝した。しかし国内では無敵の北田も、世界選手権を含む対外試合では歯がゆい試合ぶりが多く、真のエースとして大成するためには精神的なトレーニングが先決であるように思われる。

一方、北田と並ぶ〝2本柱〟と期待されている陣内貴美子(サントリー)は、全日本総合では2回戦(初戦)で日体大の今川に破れ、女子チャンピオンズ・トーナメント(2.13東京)では米倉に逆転負け。全日本実業団(6.22～26札幌)の決勝、対松本組の試合で河本をくだしサントリーに優勝をもたらしたものの、全日本社会人ではこの河本に4回戦で当って負けるなど、ちぐはぐな試合ぶりだった。いぜん、体力・コンディショニングに問題が残っているようだ。

女子ダブルスでは米倉と徳田敦子(東京協会)のコンビが全日本総合に4連勝、全日本社会人にも3度目の優勝を飾った。このベテラン・コンビは対外試合でも、シングルス勢にくらべて比較的ましな戦いをしたが、半面、これを倒すペアーがいぜん現われないことは物たりない。日本の女子スポーツ界が保持する唯一の世界タイトル〝ユーバー杯〟の防衛を明年にひかえ、女子にはむしろ不安材料ばかりが多いこの1年だった。

女子といえば、トップ・プレーヤーだけ8人を集めたチャンピオンズ・トーナメントで、大阪勢の北田・東海林・鴻原がそろって欠場するという残念な出来ごとがあった。しかし、この穴を結婚してミセスとなった河本ががんばって埋め、練習不足を闘志で補って優勝。話題を呼んだ。

指導者の研修の場でもある全日本教職員選手権(8.8～10沼津)の一般男子シングルスは鏑木智博(前橋東商高教員)・同女子は南雲栄子(南橘中教員)と、団体をひかえて強化いちじるしい群馬勢のものとなった。群馬勢は一般男子ダブルス・一般男子団体(3連勝)も制した。女子団体は東京・成壮年団体は熊本(4連勝)が優勝した。

今季誕生した日本協会主催イベントが、ジュニアのほかにもうひとつある。全日本家庭婦人大会(8.24～26東京)がそれで、大会に先だち、日本家庭婦人バドミントン連盟が設立された。大会は50代のプレーヤーも含む全国24チーム(23都道府県)代表が参加、東京都Aチームが初の栄冠に輝いた。主婦のバドミントンはあくまでもリクリエーションだが、その〝熱〟が子供たちに伝わることを協会は期待しており、来年以降は1部(未経験者中心のクラブ対抗)と2部(経験者による府県対抗)の二部制とし、その前にまずブロックごとの大会を充実させ、これをメインとすることが考えられている。

チーム戦の全日本実業団選手権(6.22～26札幌)は男女162チームが参加して行われた。男子は電電東京がヨネックスをくだして3連勝、女子はサントリーが2連勝した。男子では名門トヨタが〝復活〟してベスト4に進出、女子では部員わずか4名の岡山・松本組が北田をエースとする三洋電機にせり勝って決勝まで進み、注目された。

今年の主な大会の戦績

優 —— 優勝
準 —— 準優勝

昭和57年度全日本総合選手権

12／14～19　東京都

●男子シングルス

優 長谷川博幸（ヨネックス・東京）
準 土田証雄（電電東京・東京）
ベスト4 権藤浩二（日体大・東京）・銭谷欽治（カワサキ・東京）

●女子シングルス

優 北田スミ子（三洋電機・大阪）
準 東海林文子（サントリー・大阪）
ベスト4 米倉よし子（電電東京・東京）・河村茂美（三洋電機・大阪）

●男子ダブルス

優 長谷川博幸／宮本幸弘（ヨネックス・東京）
準 土田証雄／宮森庄吉（電電東京・東京）
ベスト4 池田信孝／尾崎幹雄（電電東京・東京）
今泉　勉／米沢和男（高岡市役所・富山）

●女子ダブルス

優 徳田敦子（大阪協会・大阪）／米倉よし子（電電東京・東京）
準 河本小織／高田幹子（松本組・岡山）
ベスト4 東海林文子／高峯和子（サントリー・大阪）
北田スミ子（三洋電機・大阪）／陣内貴美子（サントリー・大阪）

●混合ダブルス

優 辻　敏弘／徳永順子（ヨネックス・東京）
準 鈴木　裕（三条機械・新潟）／関根和子（新潟ロイヤル・新潟）
ベスト4 宮森庄吉／三田知佳子（電電東京・東京）
栂野尾昌一／栂野尾悦子（ヨネックス・東京）

第14回全日本レディーズ・チャンピオン

2／13　東京都

優 河本小織（松本組・岡山）
準 米倉よし子（電電東京・東京）
ベスト4 徳田敦子（東京協会・東京）・陣内貴美子（サントリー・大阪）

第33回全日本実業団選手権

6／22～26　北海道・札幌市

●男子

優 **電電東京**（東京）　土田証雄／宮森庄吉
池田信孝／尾崎幹雄
西山博司
宮森庄吉

準 **ヨネックス**（東京）　長谷川博幸／宮本幸弘
栂野尾昌一／丹藤勇一
長谷川博幸
宮本幸弘

ベスト4 **高岡市役所**（富山）　今泉　勉／米沢和男
米　正隆／関村順治
今泉　勉

トヨタ自動車（愛知）　山本秀樹／坂本宏志
磯野雄二／坂本昌嗣
坂本宏志
菅原敬二
須貝英徳

●女子

優 **サントリー**（大阪）　高峯和子／陣内貴美子
岩見洋子／西村美千代
陣内貴美子

準 **松本組**（岡山）　河本小織／高田幹子
原田美智子／合田なおみ
河本小織

ベスト4 **日本楽器**（静岡）　川島直子／白松千加子
山本美津子／彼島佳子
白松千加子

三洋電機（大阪）　河村茂美／北田スミ子
平　久美子／冨田美千代
河村茂美
北田スミ子
植田日出子

第34回全国高校選手権

8／2～7　愛知県豊橋市

●男子シングルス

優 江藤裕樹（比叡山高・滋賀）
準 見市昌弘（奈良市立一条高・奈良）
ベスト4 佐藤　浩（市立尼崎高・兵庫）・福田　実（小松原高・埼玉）

●女子シングルス

優 鴻原春美（四条畷学園高・大阪）
準 小泉陽子（園田学園高・兵庫）
ベスト4 青木きよみ（熊本中央女高・熊本）
上村美香（信愛女学院高・熊本）

●男子ダブルス

優 川本英明／林　謙一（九州学院高・熊本）
準 勅使川原尚／藤咲勇一（桐生市商高・群馬）
ベスト4 宮　康二／志村裕喜（日川高・山梨）
加藤安史／長谷川典靖（日大山形高・山形）

●女子ダブルス

優 鴻原春美／新木貴子（四条畷学園高・大阪）
準 上村美香／平井真由美（信愛女学院高・熊本）
ベスト4 根本まゆみ／須藤千代子（小山城南高・栃木）
原田真理恵／本田みどり（新潟青陵高・新潟）

第22回全日本教職員選手権

8／8～10　静岡県沼津市

●一般男子シングルス

優 鏑木智博（前橋東商教・群馬）
準 坂井茂則（日体大教・東京）
ベスト4 秋庭克行（吾妻高教・群馬）・西村龍夫（唐崎小教・滋賀）

●一般女子シングルス

優 南雲栄子（南橘中教・群馬）
準 中沢　淳（大崎中教・新潟）
ベスト4 土田理恵子（小針中教・新潟）・松枝睦子（桜町高教・東京）

●一般男子ダブルス

優 今井勇司（渋川女高教・群馬）／栗原恒夫（桐生高教・群馬）
準 西村金治（草津市教委・滋賀）／北橋　進（滋賀県体・滋賀）
ベスト4 高岡　桂（芦原中教・福井）／神戸　照（足羽高教・福井）
水内　浩（医王山中教・石川）／西川慎一（金城高教・石川）

●一般女子ダブルス

優 藤井良子（桜美林大教・東京）／松枝睦子（桜町高教・東京）
準 平野　幸（南浦中教・新潟）／中沢　淳（大崎中教・新潟）
ベスト4 豊田由美子（千葉衛生短大・千葉）／本吉登美栄（千葉県体協・千葉）
鹿野美恵子（常盤木学園教・宮城）／樋渡誓子（高森小教・宮城）

●混合ダブルス

優 山下圭一（新潟青陵高教・新潟）／土田理恵子（小針中教・新潟）
準 田部井秀郎（淑徳与野高教・埼玉）／深井規子（大宮泰平中教・埼玉）
ベスト4 杉田　博（立野高教・神奈川）／杉田良子（立野高教・神奈川）
藤田典和（額小教・石川）／小野順子（石川）

第13回全国中学校選抜　8／20～22　山形県新庄市

●男子シングルス

優 三角典生（ヴィアトール洛星中・京都）
準 大堀　均（今市中・栃木）
ベスト4 三船昌晴（嵐山中・北海道）・畑野宏幸（出水中・熊本）

●女子シングルス

優 松尾和美（帯山中・熊本）
準 三上明子（弘前一中・青森）
ベスト4 西林昭子（備前中・岡山）・松本啓子（明野中・茨城）

●男子ダブルス

優 紙谷隆志／久住　猛（桜山中・熊本）
準 谷口久永／林　秀行（江陵中・北海道）
ベスト4 梅田　毅／田中忠夫（燕中・新潟）
結束雄二／堀内　滋（阿見中・茨城）

●女子ダブルス

優 安達優子／毛利千秋（菊池南中・熊本）
準 西沢紀代美／林　美希（京陵中・熊本）
ベスト4 村上文江／行方紀子（昭栄中・千葉）
田中美和／河村祐子（草津中・滋賀）

第1回全日本家庭婦人　8／24～26　東京都

優 東京都Aチーム
準 神奈川県チーム
ベスト6 兵庫県チーム
東京都Bチーム
千葉県チーム
北海道チーム

第26回全日本社会人選手権　9／3～6　奈良県田原本町

●一般男子シングルス

優 銭谷欽治（カワサキラケット・東京）
準 毛利達彦（金沢市役所・石川）
ベスト4 坂井茂則（日体大教・東京）・西山博司（電電東京・東京）

●一般女子シングルス

優 北田スミ子（三洋電機・大阪）
準 東海林文子（サントリー・大阪）
ベスト4 米倉よし子（電電東京・東京）・西村美千代（サントリー・大阪）

●一般男子ダブルス

優 土田証雄／宮森庄吉（電電東京・東京）
準 池田信孝／尾崎幹雄（電電東京・東京）
ベスト4 長谷川博幸／宮本幸弘（ヨネックス・東京）
今泉　勉／米沢和男（高岡市役所・富山）

●一般女子ダブルス

優 米倉よし子（電電東京・東京）／徳田敦子（東京）
準 東海林文子／菊池洋子（サントリー・大阪）
ベスト4 河村茂美／北田スミ子（三洋電機・大阪）
岩見洋子／西村美千代（サントリー・大阪）

●混合ダブルス

優 栂野尾昌一／栂野尾悦子（ヨネックス・東京）
準 松口金彦（電気暖房・大阪）／星　和子（サントリー・大阪）
ベスト4 鈴木　裕（三条機械・新潟）／関根和子（新潟ロイヤル・新潟）
山本　清／高田幹子（松本組・岡山）

第34回全日本学生選手権　10／21～26　岡山県岡山市

●男子シングルス

優 松浦進二（法政大）
準 権藤浩二（日体大）
ベスト4 松野修二（法政大）・井上哲章（日体大）

●女子シングルス

優 平間真由美（日体大）
準 松田太嘉子（四条畷女短大）
ベスト4 中島真美（日体大）・今川真理子（日体大）

●男子ダブルス

優 松浦進二／松野修二（法政大）
準 権藤浩二／石場隆雄（日体大）
ベスト4 井上哲章／大島正志（日体大）
山本裕幸／古賀勝志（法政大）

●女子ダブルス

優 田向和子／平間真由美（日体大）
準 今川真理子／野上満子（日体大）
ベスト4 伏喜由美子／中島真美（日体大）
野口英代／小路和代（日体大）

大会役員

大会会長 桜内義雄

大会副会長 小口政雄　真藤恒

顧問 石渡俊一　岩崎純三
奥田敬和　北口博
柴田勝治　白山源三郎
地崎宇三郎　内藤健
永末英一　西村尚治
林義郎　藤田義光
松下正寿　森友徳兵衛
山崎武三郎　渡辺秀央
清藤六郎　佐々木洋平
森康　松橋藤吉
鈴木伝四郎　原正
阿久津順一　日野貞夫
大須田良作　須田勝勇
曽山皓　原二三雄
吉川芳男　中村伝
清水規矩雄　宮下明
織田喜一　斉藤武
後藤淳　安西武二
神谷一三　栗本藤四郎
今井鎮雄　藤田庸右
坂口常博　成相安信
石田祥史　天野辰雄
池上任　俊成薫
結城健輔　四島司
小原嘉文　鈴田正武
脇屋長可　相澤尚夫
米丸芳男　稲福盛輝
遠井稔男

参与 伊沢三郎　今井先
川端昇市　小宮淳宏
宮澤宏之
玉手庸　杉田安雄

大会委員長 小飼栄一

大会副委員長 浅岡武

委員 相澤和夫　相場清一
池田昌道　伊藤鑛一
今北基夫　岡本武利
神澤暁　堺三徳
里見光徳　清水善一
辰市祐昭　内藤安雄
野村嘉明　浜中誠
増田稔　上原正士
加藤三夫　福岡幸一
村山幸雄　笠原一男
小山内信一　竹林克彦
中村隆　松橋裕
板垣隆房　須藤博
加藤寛治　五十里光秋
高橋重夫　川上弘
秋山真男　阿部孚
長浦音吉　中島寿禧
原紀征　大箸昭司
伊豆晃　河田歳雄
沢長寿　池田芳麻
北義一　木村寛
吉田健次郎　山根怜
高麗久義　安倍淳美
津守幸介　東条義昭
富田善明　新名静夫
山本能也　木原逸夫
鳥越邦彦　本郷節生
川島一郎　日高壮
藤本滋　屋地久潔

実行委員会

委員長 増田稔

委員 池田昌道　清水善一　里見光徳　浅岡武　五十里光秋
遠藤幸夫　前田耕作　菅原幸雄　根岸知子　殿川宣勝
伊藤誠彦　森谷喜久男　高橋秀男　後藤哲　高橋英夫
新木敬司　加藤寛治　白倉一民　村山幸雄

競技役員

総務委員長 増田　稔

総務副委員長 清水善一　菅原幸雄
高橋秀男

委員 加藤寛治　荻田実
関敏夫　佐賀武兵
千葉健夫　佐藤隆
長岡早苗　阿部裕子
岡本よし子

広報委員 殿川宣勝　花岡牧夫
柳井法夫　炭川萬次郎

競技委員長 池田昌道

競技副委員長 前田耕作　白倉一民
森谷喜久男　新木敬司

委員 笠原勇　鈴木潔
根岸知子　栗田光憲
峰岸千尋　宮永武司
松浪鋭四郎　入間秀哲
本田修治　戸村正樹
島原敦　小飼清統
宮健次　松岡昭典
山崎恵子　宮崎千佳子
穂坂久夫

審判長 里見光徳

副審判長 五十里光秋　伊藤誠彦
遠藤幸夫

審判員 三須徳次　太田耕貴　石黒次男　真下清　石井今朝雄
山口健次郎　金井功　冨橋米治　久保田宇作　林一夫
柿沼茂　三浦誠　久津川孝　滝川修　斉藤佶
館野政男　遠藤隆　藤田明夫　龍井昇治　澤井利之
桜田豊次　国吉草　篠田由起夫　今井正男　加藤弘道
田端靖　石川顕法　藤元一夫　須田孝夫　新木恵一
中村祐康　石垣宏　中橋優　平野光男　小柳博
臼井俊治　幸野邦昭　佐藤孝一　山本昭治　佐藤六夫
田中伴幸　伊東光男　細江政雄　沼田七郎　林美津江
川田喜一　蓑栄三　福留晋一郎　鬼島悟郎　森山美奈子
稲村昇　山崎博光　田原健　半田実　村杉英子
横山和子　仲野満沙子　坂爪敏夫　石井幸男　高橋良雄
桃井雄二　大島章子　戸田雅子　行川芳子　沢登茂子
松木三枝子　大久保忠晴　和田正枝　塩谷益美　藤澤裕子
森麗子　山本悦子　浜田久美子　萩原千代　石川良征
渡辺貞夫　町山靖夫　的場利恵　福住幸子　石川節子
長田悦子　吉岡政雄　納谷栄子　西村はる恵　渡辺美雄
美川久子　河野道子　浮川寿恵子　藤野安重　荒谷勝道
浜中久美　沼田昭子　藤井晃　樋地正秀　鷲多賀子
堤靖男　川辺正雄　柴崎義雄　庄子正孝　綱谷栄子
木村伸一　坂井照男　原正人　儀間常雄　上原敏夫
渡辺英明　小泉紘　鵜沢敏信　広瀬皓二　藤井一伸
井伊二三子

1984年バドミントン・イベント・スケジュール

1月 ヨネックスカップ・ジャパンオープン'84
バドミントン選手権大会(1/18～1/22 東京都・東京体育館)

2 第15回全日本女子バドミントン・チャンピオンズ
トーナメント(東京都)

3 第12回全国高等学校選抜バドミントン大会
(3/25～3/26 金沢市)

6 第34回全日本実業団バドミントン選手権大会
(6/15～6/19 大阪市)

第35回全国高等学校バドミントン選手権大会
(8/1～8/5 秋田市)

8 第23回全日本教職員バドミントン選手権大会
(8/8～8/10〈予定〉 弘前市)

第14回全日本中学校選抜バドミントン大会
(8/22～8/24 大阪市)

9 第27回全日本社会人バドミントン選手権大会
(9/8～9/11 鳥取県大栄町)

第39回国民体育大会バドミントン競技
(10/13～10/16 奈良県田原本町)

10 第35回全日本学生バドミントン選手権大会
(10/20～10/25 名古屋市)

11 第6回バドミントン日本リーグ

第38回全日本総合バドミントン選手権大会
(東京都〈予定〉)

12 第3回全日本ジュニア・バドミントン選手権大会
(東京都〈予定〉)

NEW MODEL
SR-1 FINECARBO



SR-1 FINECARBO

¥12,000(フレーム)ヘッドカバー付
フレーム：カーボンとアルミ合金の複合
シャフト：オールカーボンテーパーシャフト
カ ラ ー：ワインレッド、ネイビー

SunBatta

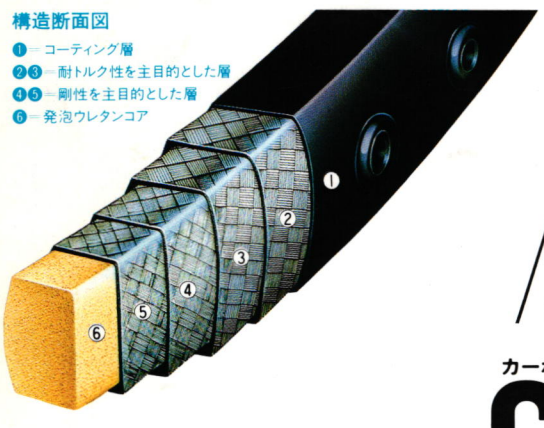
株式会社諸江製作所
〒151 東京都渋谷区笹塚2-46-8 TEL 03-377-4401(代)

きわめつけ！オールカーボン。



シャフト構造図
オールカーボン積層
ワインディング構造

構造断面図
❶―コーティング層
❷❸―耐トルク性を主目的とした層
❹❺―剛性を主目的とした層
❻―発泡ウレタンコア



初速300km/h以上から0までの無断速のハイスピードスポーツ、それが現代のバドミントン。こうした一瞬のあらゆる変化に応えられるラケット、それがカーボネックス15です。オールカーボン積層ワインディング構造をもつシャフトに、オールカーボンの世界初・MULTIPLE LAYER SYSTEMを採用したフレームを装備し、反発力・耐久性を一段とレベルアップさせるなどヨネックスならではのテクノロジーが、すみずみまで生かされています。ですから、素材性能が、ラケット性能としてパーフェクトに応えます。さ、パワー&スピードの時代に、これ。

カーボ・フィフティーン
CAB-15 ALL CARBON RACKET Carbonex15

MULTIPLE LAYER SYSTEM

トルク現象を解消し、正確なレスポンス&コントロールを実現させるため、またカーボン素材のもつ抜群の反発力をロスすることなく100%活かしきるために、フレームを構成するオールカーボン4層それぞれが耐トルク性・耐剛性を目的として設計された、世界初のシステム構造。

●オールカーボンロングシャフト●オールカーボンフレーム●重量(g)/U(95～99)・3L/(100～104)
●￥14,000(フレーム・ケース付)●YONEX REPS(バドミントン主力登録店)特定販売商品

YONEX